羣書一覽 三

和書門
類 一八六六一 號
函 一八三 架
冊 一四六

内閣文庫
二六一 函
一九 架
六 冊

内閣文庫
番號 和 18661
冊數 6 (3)
函號 261 16

国立公文書館
National Archives of Japan

浅草文庫

群書一覽巻之三

物語類

竹取物語　二巻

[illegible]

竹取の翁といふもの竹の中に見付けて養育し家富さかえ[illegible]
天女[illegible]登天せし[illegible]
[illegible]
[illegible]

○奥冲の河社[illegible]竹の中に[illegible]
[illegible]内外断[illegible]宝樓閣経不空三蔵譯弘法大師将来第[illegible]三併
言乃住古普乃至有二仙人一[illegible]時彼仙人得法歡喜心生踊躍於其
住處便捨身命所捨身猶如生酥消融入他即於沒處而生竹金
為荳葉七宝為根[illegible]其竹生長十月則自剖裂各於竹内生一童

子顔容端正なること即於是時竹下結跏趺座即入忍定至第七日於其中夜皆成正覺其身金色三十二相八十種好圓光嚴飾時彼三竹皆変成七宝樓閣なり源氏物語の男子女子なりしなり

てうきなりや又後漢書西南夷傳にも竹王部落一男子なりしなり

うてうてうや姫はこれ古事記垂仁天皇の段にも又事大筒木垂根王之女迦具夜比賣生御子表邪弁王これとかくの如しかけ

てうてうてうて

刊行せし中宵宣長ガ記ガ中ニ所載今世の板ハ巻の名
なるべしうろ覚なれもまぎれなくつづけ書にて四巻ハ
まことに古かるべくこゝにしるす次第ハ
第一　後撰　　第二並　花系君
第三並　たぐひ　　第四　梅花花　一名春日まて
第五　源氏の流　　第六　吹上の上
第七　吹上の下　　第八　ふかつぼ
第九　菊の宴　　第十　あてびと
第十一　初秋　一名　ちとせの名月　一名　すまひの節会
第十二　たゞのもり　　第十三　藏びと上
第十四　花びら中　　第十五　花びら下
第十六　梅花の上　　第十七　梅の下
第十八　ふゆびと上　　第十九　ふゆびと中
第二十　國ゆづり下

かゝれ〳〵ゝ合せて二十巻なり俗に今世ハ源氏の巻名花びら
のトとしてゝ吹上の巻ハ上下ハつゞく物語ゆゑ藏びと花下梅ふゆ
びとの下ハ梅花の巻ハ上下のつゞきなるゆゑ上下ハ法
第物語ゆゑ同下物語ゆゑ上下ハ別巻なれ共今世やの花び
らものトハ古のかんなりふるのこハトトなりしふゆびとトハ藏びと
トし梅花のこハトトハとしふゆびとこハ中中ハとしさのかんハふゆ
びとなりしとなるべし今世やハ上下一巻なり物語上下ハ
ゆゑなりとなり物語ゆゑ合せて二十巻にせりとなり
き一なりよハびのもりなり物語なり　初秋物語なり
三君物語なり　梅花の上下物語なり九物語なり
とこれ〳〵のつゞきハ物語ゆゑ上下物語なり
えとくも考へ出ずしんくれんどくさまあてよろもく右の考ハ
田一尾伝の小人清井の菜ガ出物ゆゑこれ書ゆゑ考
ゆゑとよれもしこれ考ゆゑ○梅ずゝ奥中の行社ゆゑ

物語のうちに相応の作せり

宇津保物語俊蔭巻　三巻

別刻にうつけと巻の中のうちに自作のうたを合せ載せ人もいる
也とかけるもとより○かの八條氏作今の世にけるのおきれまりほのぼのいけの者物語をせんとぬすみ人の
けをむすび別刻にうつすべし

濱松中納言物語　写本　四巻

作者つまびらかず中納言なる人もろこしにわたりの中の底本
しくよかけくゆくるもまちもとめ才一巻代中の字よ
同じりのこの濱松をひろう物語をうつし為えて
えくえくえづけるこのこんしょうの○さのびるよりしりのび
うけ内侍のうしのひきうち琴代物語りもあり○天なる三巻の
なかりう四巻のこの物語をかすす○二根集　荒木田守平三光院内大臣寂蓮
ものし　物語代そじめ四巻のうちは初めの濱松を

住吉物語　二巻　三本

他者のつまびらかず二巻のうちの八巻刊なる巻よりてうむ
中納言なるくなる藤原なる人のむすめまもるふくれる
物語をうつしなる巻さるべき物語のうつ世○按ずるに
納言代物語八住吉物語のうちに季をのぼる住吉物語
二巻のうち異なる十巻のうち伊氏物語のうちを二巻の住吉物語
もとより少○今昔物語巻のうちに代の八人なる女房
あるもうくに住吉の姫君の物語をうつしなるもの
とかるもの代そじめるもの代なるもの代なるもの代なるもの代
萬渓ちすみのの名八ちれど今世おとなりし八昔の名物語
て侍人の他世るし侍るし小一條院の御ちつれるしうの人の
世けるのうちもしあるしハうねるもの近き世よりの
しるるもの

伊勢物語　二巻

此物語作者のゆくへいにしへ業平と駿河の国に
も御供してゆきしかども古書ども御考へ合せ熟覧する業平の
自記御いせの書給れてしかるに法あれどもよけがしくとかるの
○業平の此伊勢物語ハ生涯業平翁の一生の御ものがたり題号の
名并に作者古来多明の説なし定家て奥書に古事口伝而可信又
云上古之人強不可尋其作者唯可翫詞花言葉而已又名此詞肝要なり
尤是よりしるべし　歌学ハ人いせ　なるべし　今案ずるに堀河院御歌
百首に花ハ忠房池水ハ　なるべし

いせなるもやまとなるもやまとなるもいにしへのこ
ころをしたふ伊勢人のひがごとせるなるべし
ゆゑ西行法人の山家集にもいせ人ハひがごとしるべしとあ
るべし　作者謙退　なるべし　伊勢物語ハ俗説実録　なるべ
し　○真淵云世
の御ものがたりハ是ハ人ハ人ハ　なるべ
伊勢齋宮の御ものがたり　荷田東万侶大人の
説二説ハ御説なるべし　伊勢齋宮の御ものがたり
なるべし　なるべし　なるべ
其上ハ　大和物語ハ今代の
大和の心
大和の心
伊勢物語説ハ伊勢ハ俳諧　なるべ
のたとへ　なるべ　なるべ
なるべ　なるべ　なるべ
なるべ　なるべ　なるべ
なるべ　なるべ　なるべ
なるべ　なるべ　なるべ
なるべ　なるべ　なるべ
なるべ　なるべ　なるべ
なるべ　なるべ　なるべ
なるべ　なるべ　なるべ

の次序はもとづけ[illegible]とう解[illegible]あいうゑおけ[illegible]されハ
ひぐらしてゆんもていやこのうろこ[illegible]ゆうりうそいやまひぐらしてこと
ゝゝれあるハ堀川なる百首よりくはなも略長明うそる
いせくハいくゝゝゝ

殿と仕て其ねの氏親の母ハ系の伊勢伊勢守の女なりしを尼となりて小川殿といへり駿府にて遠江の国の吐菊の系図にハ伊勢さいの守とあり一世の祖母なりと今川了俊より十二代めに氏実より甲州信玄に至りて甲州乱に失ひ予が先祖ハ常に駿河に居れり○今案ずるに桃花太臣仲平公の子孫なるべし伊勢のかなもとの公嫁参の公なりしかれども此ハ新撰万葉集にもそひあり

真字伊勢物語　二巻　六條宮御撰

六十二代村上帝第八皇子六條宮具平親王所撰なり伊勢物語の仮字を真字に書直せり

いにしへとかの人のをとこ文をしるしてひ女に遣りけるとばかりよ真字にかきなをしたりしかどもかの人の名をそいへるとかましきことなりけれどあへ假字にかきなをしたりけるのちいとかくいまはしきことなりけれども仮

かなもまじりたれども人はまことにうるはしくそひ給ふ
代の事なれば　山親王の　幼稚なれば
出家して　修行　向ふ　言者の　名
くせり　男は　他出　丈夫　名
の　女の　才　
つ　さ　
こ　
ひ　
の　
の　
の

このごろ世にもてはやされるものつゞれ假字よりとハ今やしうひてしらずとなりぬとしかるに真字よりハ古やまとうのくぶりくほめくことゞくこゝろ引ものしれどもすてゝ和歌ハ世の中の人のこゝろ引なるこゝろにかんさゝぐる古のうたのかのるかつゝもこゝろ仮字のいとゞしくこゝろ引ものなれりんうつりくるあさぐらく○今ハ列が寛永二年九月とあす

舊本伊勢物語　三卷

綾太理校訂のなりて舊本とて人のもちてしやのるまゞやまきてくしのしたゞいろいちはやくしるしたるものなり六條ハ六條ハ六條ハ○老夫上下一毎ハ附すこれハ惜ハ美ハ六條ハ六條ハ○もれゞるものハ考へ行べきものハ考へ行べきものハ金沢雄杜多序曰ゝ七

月刻○本居宣長ハ近世ハ人の出せる舊本ハ真名の中もてはやされ仮字ハ大ハ今ハ系ハ世の人のおもひ出ることなかりしかるに今ハ系ハ世の人のおもひ出ることなかりしかるに今ハ系ハ世の人のおもひ出ることなかりしかるに

いとぐちハさすがよつてこのひゞき物をくぶかくよりはしめ
くぶるよりのつゆのなこハ修り者あしうしらけとせやへ人修り
者仁逢有しに仁て上稱をてゝなもいこつの雅言の例をそ
め今世の俗言のこゝらかゝるひゞくもとゝりやゞれて
ゝ〳〵のくゝハたゝらびゝ知や

伊勢物語髓脳 写本

これハ上京澄春ゞ作のゝ〳〵ゞ多かゞゞもをてゝ〳〵
ゝゝよゝをせゝゝゝゝはの作をしていせの二字ハ男女の
きかせゝ澄春ハ業平の男ゝゝ父ハ信ゝつゝ七箇條の
髓脳ハ稱ゝゝけゝゝ書ゝ男女相合のゝ如ゝ天下
萬象五行四神ゝ孔伊勢しなどをゝゝゝ岳ゝゝ
これゝゝのゝゝの古ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝ知顕集ゝを
せゝゝ林ゝゝゝこれハ天仙ゝ信ゝのゝ作ゝゝゝゝ
知一條後園の愚ゝおゝ作ゝゝゝの知弘集ゝ業平中ハゝ孔

故音小町ハ如意輪記音の化身ゝゝ其外胡乱ゝゝのゝ
これハ作せゝゝゝこの作ハゝゝの多ゝゝあゝ信ゝのゝ如の
ゝゝ擬作せゝゝゝゝゝゝゝ

のせ〻ゝすかの傳　業平の小伝など付たるもの　業平の小伝　定家の備かの業ちがう○はおれ花園院の御筆
実録の業平の伝　定家の備かの業ちがう○はおれ花園院の御筆
四巻　成立　切臨が集なるよしなり○寛文十二年二月刊行

伊勢物語宗祇抄　一巻　二本　宗祇法師

はお舊名宗祇山口記　いろ業ちがう此一冊者延佐抄　防州山口
〻〻はの伝の薄形のはの初のもの〻〻ものるれば書
〻〻寛文八年三月天城春意玉字の序あり

伊勢物語惟清抄　写本　一巻　舟橋宗尤

外記舟橋翌軒宗尤西三條道逸伝及より相伝の伝化〻〻

伊勢物語肖聞抄　写本　二巻　釋肖柏

はの系図の内家牡丹花肖柏はとのうち聞書のとももの
以〻伝すの〻肖聞おく号せり

伊勢物語闕疑抄　五巻　細川幽齋

中院也足軒素堂の妻ちがう此闕疑抄ハ幽斎花新作のゆし旨趣奥書
えしかう　慶長二年孟冬○跋ちがう此抄流の抄也はあり
〻〻華夷はの〻〻〻〻〻〻〻〻伝よりは八条の薄伝〻〻
べきもの〻〻〻〻〻〻〻〻

春十五日ごろ成ぬるものし

伊勢物語難義註　写本　一巻

作者伝ならびに諸本ならびに中古歌人の歌を載せ、末に紀貫之の序を載せる。

伊勢物語初冠　五巻　加藤槃齋

此書は闕疑抄なるべし。冷泉流の伊勢物語の初冠と名づけ、巻首に大略の論あり。業平自筆の本、二条は具平親王の本、安部は安部四人の本、内侍は内侍の本、五条は伊勢の中書の本、七条は長能狩使の本、これらの諸本を具平親王は普通の本、安部は安部一家の内侍は内侍の本、めかんは長能の本、あこきは浦の本、焼失は焼失の本、焼却は焼却の本、これは業平四代の末裔藤成章の所蔵の業

平の自筆の本、中は和代の本、長能は狩使の本、伊勢は新撰の本、これは朱雀院の時代の秘蔵で長能の弟業平作の髄脳なり。つらつらこれを考るに、あるいは長能は仮名の塗抹の本、時長能は狩使の本、新撰は伊勢の本、使は狩使の本、家は宝生の本、○大略の末に東鑑五十九に東山建仁寺書記食後僧槃齋と自序あり。

伊勢物語集註　十二巻　一華堂切臨

此物語の新註は兼良公の愚見抄なるべし。光産の未書名、中ごろ世にあらはれ、闕疑抄なり。これは書写の誤なり。

府実隆公より花山院家堂乗阿へ伝授ありし奥義伝授の
ものゝ諸抄を集めて一部とせり其序文に
序文にいはく此書は十一巻の要を系図より
十二の巻は古注歌学の沿革大意雑説真名伊勢物語等
まで悉く列行す

伊勢物語勅講抄 写本 二巻

明暦二年八月 日 水尾院御講釋の聞書し所聽衆は
護院宮 飛鳥井大納言雅 八月廿一日より九月廿九日まで十二座
にて御講なり初日御講釋の次第 初段より男もすなる
てに一段御講の写後まで詠歌大概より殊よろしきは伊
勢物語抜粋迄十六人集の内より抜出し歌一首
次に定家の自筆のなるを以て写す奥書に海歌次第の
めしぬりしあるべきの段まで仕らせ九月廿九日御
後の時八百廿四段迄

○此書奥書に飛鳥井一位秘伝抄以て為本とし
伊勢物語拾穂抄 二巻五本 北村季吟
惟清抄肖聞抄古注抄宗祇抄等の注抄取捨し
て注釈の書は水尾院の叡慮に依て
拾穂抄季吟の軒号し

伊勢語臆断 写本 四巻 沙門契冲

古注新注ようやく契冲自己の名抄以て称すれども
せずして○巻首に冷泉家の説は主系業平の一生の
抄を中に引用し作者古来の説を○向に世に伝
るの説に引いて○巻末に二條后は業平の古今集に
ほのめかしたる名抄にはつまり手ぶりの
后は延喜十年ごろおとゝ十ばかりにて
又二条后は寛平八年ごろ后位に傳めれさせ
位に復し給ひ二条后しかるべし古今集の

二条后とうけ給て彼もはた人のあるなかに中ごろ人批
把殿八承平八年よりさきの左大臣ハかりけるとて誹諧よもろし
のくしてよくいふ作者ハ左大臣ハかりけるこれハ准らてをこし也
后位ハ復しけるをぬけ后とうけ勅命ハ遠宵すとうけ給
みさものをうハ貫之等の伊勢ハ同時のうハ世の世を幹なとのはれ
ハ物せいとハをさをよ物をはちかをうハ詞もあれをうハ者ハ
なしみな或ハ業平詞はめあひはれハ書ハ作者ををうきを
きをうハ謙退ハ中ハの自記なをの名ハ古今集ハ業平の
ハ物載ハ詞ちのくをきとろおけハ山をのをうハ似ハ
すハ家集日記なをうハ出ハをうをすハ古今集ハ
詞ちはハしてをくくをくせをん みな万葉集の歌物語を
載ハハ他者のくをてををなを みをハ物語ハ古今集ハ相違の
をハハ彼ハ勅撰なれをたハハくくれハ物語なれををまをせを
をハをを ハは撰集捨遺集これハ准らをを みをを月諸人の名

位等たハハあるをハハ中ハ矢をを業をの四十九日のけのをハ当時
のたくひし みをを矢れ物語のををひハりをハも虚実とをををかを
くハ五雑組ハハのををハをををを文勢をををなを
このをのをハも実録なハぬををくゆハををををハハを
みを土佐日記ハをハ一巻なをハ業平のをハ引ハハハ三所を
ハ業ハれををれをハをを業ハれをををを人ををの
人ハををハ みを上巻ハ四十八段ハハ下巻ハ七十六段をを合て
百二十四段し○業ををハ古勢語臆断四巻をを抄ハハ其稿ハ其行
稿自ハふハ仍を春俳老を写ハ物ハ系暇不能投合近日ハ為
一校以改正ハ 文禄五年秋初三寮集伊門釋契沖

伊勢物語童子問 写本 十三巻 荷田春満

巻首ハ曰童子曰伊勢物語の註解をハをハをハをハも諸説の是
ハハをもをハをハ細川玄旨の爾疑おを為ものハと歌学者流
皆ハハハハ今爾疑ハハハハ問をハハ○ハ書假ハ童子の

問答設けて物語一部の疑抄のようなるものなれども
ひらけ侍ぬ所ひらけ侍ぬ所の仮名をあげ侍り巻首
の問答より物語の名及び他者の論ひ古今よりの
の條より歌一條のをよつて侍りのごとく考へ侍るかゝ
り侍ぬ所ゝ他者のゝ八業平の自記伊勢物語より
しく冷泉他者ひられ侍きゝ以て○巻末より荷田宿禰春満答
伊勢物語古意　六巻　賀茂真淵
此書ハ古意といつゝ古代の物語の論の古代のゝ
すめ古代ハ物語ハ作者のこゝろ論ずるゝ書ハ
せるのゝ物語の歌のこゝろ物語をもの業平の時
代の考へしるすこゝろ物語ハ
ゝ○巻首より総論八箇條あげ物語ハ
ゝ業平の自記なり伊勢の論の
ゝ時代のゝ古今より他者の

むゝ男といふゝ○をゝめる野村遜志上田秋成等の序ハ○附録
ゝ一巻八秋成ゝ
ゝ
ゝ
月ゝ本す
伊勢物語章甫鈔　八巻　岨山春幸
書引用ハ水尾院御海釈のゝ九條師下植通公
説　貞徳自筆聞書　玄旨聞疑抄　季吟拾穂抄　牡丹花肖聞
抄　一条禅閤愚見抄　契沖勢語臆断等し　この外の諸抄の仮
説も考へ合せ考へ○巻首より滋野井公麗の序
序ハ巻末より正五位下若狭守紀宗直跋ハ宝暦二年刻す
勢語通字本　二巻　五井紀禎
世ものゝ所作のゝ所ハ
ゝ君臣父子朋友等のゝ
ゝ俗耳より通じやすく
等のみゝ

め外篇〜〜〜〜〜〜

伊勢物語傍註　二巻　賀茂季鷹

かゝれたる諸本の異同校正〜〜〜〜〜〜

くゝのぶてさせ給ふ悲涙ハ行ゝすゝうれゝゝゝ管見のゝゝゝ
ハ山花山院のみゝゝハ冷泉第一の皇子母ハ皇太后宮懐子藤原氏太政大臣伊
尹女安和元年ゝ降誕ゝゝ永祝ゝ十月十日ゝ皇位ゝゝとゝけゝゝ
ゝゝゝ皇位ゝ二年ゝゝ寛和ゝ六月廿二日ゝゝゝゝゝゝゝ花ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

二物語ハ[illegible]

[illegible]

○荷田春満ら大和物語ハ今ハ系の[illegible]

[illegible]書れ[illegible]

[illegible]

大和物語抄　六巻　北村季吟

[illegible]

[illegible]

巻尾ニ自跋ア

大和物語首書　五巻

作者つまびらかず書籍目録ニハ一華堂切臨と[illegible]大[illegible]

季吟の物ハ[illegible]明暦[illegible]二月上本

落久保物語　四巻六本

一の上二の下二の上下三四[illegible]作者保[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

落久保物語頭書　四巻　加茂真淵

此書真淵講説の筆記なり人形書[illegible]
[illegible]漢字と陪[illegible]訓とも加ふ寛政六年とし廿千蔭の序あり

落久保物語畧本　二巻

此書八万治二の刻[illegible]書籍目録に畧かしとあるれど一部の趣意すこしくみるもすくなしこれ[illegible]
賜ふ歌一首真淵[illegible]同じ[illegible]の[illegible]○此書の趣は中昔の[illegible]長岡よさはの中納言[illegible]人[illegible]此子[illegible]
[illegible]姫君[illegible]姫君七家の[illegible]毎月の
[illegible]
[illegible]人[illegible]の姫君[illegible]二位の中[illegible]

[illegible]

源氏物語　五十四巻　紫式部

此[illegible]河海抄の説に西の大臣[illegible]明石の巻和二の
太宰帥の左遷せし[illegible]
[illegible]
[illegible]

式部ハ式部ノ丞ノ官ヲ略シテ云ヘリ周公旦白居易ハ共ニ一代ノ文人ナリ其ノ次第ハ左傳言管丞相ノ作ノ如ク書ク所ノ五十四帖ハ皆ナ作者ノ自言ノ如ク成ル故ニ世ニ行ハレタリ然ルニ此ノ物語世ニ紫式部ガ作ルトシテ老比丘尼ノ如ク和ラカニ誠ノ君父ノ交仁義ノ人ノ好キ所ノ嫌ハシキ菩提ノ縁ニツキテ書ケリ其ノ中ニ光源氏ノ寓言ヲ用ヒテ当今ノ妖艶ヲ比類ナシ一部ノ中ニ光源氏ノ名ヲ付ケテ其ノ一代ノ事ヲ書ケリ式部ノ名ヲ付ケテ紫式部ト号セリ或ハ云フ式部ノ名ハ紫ノ字ヲ用ヒテ紫式部ト云フ

不孝ナハ罪ニ陥ル事ハ地獄ニ入ルト同ジ事ナリ　○源氏ノ作者ハ何ノ人ナルヤ　○源氏ハ父子ノ道ヲ乱ル事ハ何ノ人ナルヤ　○白氏ノ長恨歌ハ何ノ人ナルヤ　○源氏ノ中君ノ事ハ何ノ人ナルヤ　○宇治ノ中君ノ事ハ何ノ人ナルヤ　○春秋ノ褒貶ハ誰ノ人ノ悪ミ所ナルヤ　○懲悪ノ事ハ何ノ人ノ作ナルヤ　○春秋ノ事ハ何ノ人ノ作ナルヤ　○百小説ノ醍醐朱雀ノ時代ノ作ナルヤ　○物語ノ作者ハ何ノ人ナルヤ　○宇治大納言物語ノ作者ハ何ノ人ナルヤ　○今ハ昔ノ作者ハ何ノ人ナルヤ　○世ニ流行スル人ハ皆或ル人ノ親シキ人ナリ　○源氏ハ作リ事ナリ　○源氏ハ作リ事ナリ　○源氏ハ作リ事

和歌の五律を学ぶ行成で自筆にかも著今世の作り手に伝はれる
八代集以く校合取捨しく家々せりつとゆる二条殿伊房本冷泉中
納言朝隆本堀河左大臣俊房本子書表紙左大臣筆跡 後一位藤子本
生母左大臣女子 右兵衛佐法成寺関白本唐紙表紙号尚信 五条三位俊成本
京極中納言定家本子書表紙等なりとの〳〵貸かしいづれも皆見人間なり
狩古本は勘へ合せく且て見は加みづきこのの巻とのこれ
なりの子言かり 黄表紙後鳥羽 青表紙定家 二条家これ紙用ゆ
奥入ぞうてものし已遠の所あしきく為相母阿闍梨氏後母し奥
入は切く後〳〵し或は奥入は伊房で他しこれ定家で他紙くと
なりなり 河内守大監物源光行は以く校合取捨しく
家のかしきく〇紀巴物語の作よりの差異大なり宮内卿
の中は表紙中は断絶のもの〳〵は河内守光行源氏物語紙と
なりてあるべし河内なしせのひなしせり耕雲河内
なと信じくなるべきとかはさまいはれまし

そ宗祇定家の所なれはゆしく〳〵なれく志良まとひ
〳〵くあひとれ青表紙代抜しく〳〵初蓬一条殿の所
あ〳〵めく〳〵条西内府遠孫講釈中〳〵〳〵〳〵
乃〳〵〳〵遠孫なく〇雑引物
る系抜中納言定家れな青表紙〳〵宗祇用〳〵今〳〵流布
兼堂ち定家の青表紙は関陽かのもく〳〵後せり紙の後中かん
し外部ち青表紙は定家の手付書し百四代は古歌震彩
〳〵式の外部はゆん中なり源氏の外部と今世〳〵
中よりとはれと例せり定家で自筆は相壷花宴桜所の
冊し餘は後成での手かのるし小屋で代巻こせ代遠孫
書〳〵〳〵〇木屋宣長紫文要領ち河内ち表紙と
てはあ代二やよれ〳〵〳〵近代の生整れ青表紙とれひ
ら〳〵〳〵〳〵れは考〳〵今は二なの差別れ大〳〵今世
代〳〵は青表紙の〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵

さいりけうそうの外考へ家これ藏書ども多くこれ又てうしゅ
どもこれハ仮内かこれハ表紙と令篇これたるハ又すろのけち
ゆ〻れ表紙ハあ五ども大抵之達の青表紙しいつかしろれゆる
まけ内かしいつてまろのけるかもあ五ども令篇ハ之
うずされど仮内かハ今ハ大うさ流布せずくんすけ〻ろの
なるずくれこれつきくれ〻ども仮内なくてくんれ
し近き世のおもはるくいつるハ古おろあつ松月ていつし今るなは
ずくろ之かけたちしひ仮内もあれ古表紙もあれよ和歌
ひけうそ和のぶそてくるずくうありのぶうへれ世氏
ろくくろいつるも伊勢の偽れづくひれちづひ脱落誤字多くて
さくずくこれ之きつくのうハ京狂言つ和をづあ世これ之達
人和つくし伝くもてあうずれく賞翫他書よくけれ人の諸
なくもよあやまりすあり善かこれ幸ゑ公自切おくして其
かけしかそずの作ずくしろず○此物倍古今稀見

ろす更級記こそいけるそそかどやれくのうれあれくのうれ
光源氏のけうそうれきくこうゆくさまれど桜井し
きくくくくくうでる世けくくんいく　みこ光源氏どうれくんいけ
世うおりりやいうのろあのちくくくしくれたまづもかこ世
かうこく　みこいくくんどあくくくちなのくさうあ和よけうえ
源氏かくのやくよおこくんくれるくるひくびくもかくくなくちう
くくくくくくくくの女君のやくくくにかくくくくくて花の宴百
ろ和かどあくいくんぐうけずくめどくんいくくかど和けく
行くんくうせあくくどうけりいつけあくくくくくくも世ぐくう
こく　みこ光源氏のくのどくくの巻ろくくくくくくくくくくくくくろ
けくくくけうこく　みこもくくこのくのくくくの宇治のくれむあくも
のくいけ和いくれくくくくうくくくくもくくくくくくくくくくくくく

[illegible]

狹衣ハ源氏ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]

ゑてものハ弦学の成就しるのたまものなり　孝庸の作なり　○勅撰集の中よりぬきいでたるハ千載集　新勅撰集　続古今集
俗ハ拾遺集　新続古今集
一巻　桐壺（一名壺前栽）　二巻　箒木　今物語
并一　空蟬　俳諧のかしらびし　今物語　○巻のかしらびのもと
月次和歌　春日祭　五月五日の巻の并五月の巻　菊の宴　九月の巻　俳諧のもの　并一巻　の例の
九月のかしらびのやう　一編　同付　俳諧　つぎ
もとふるもの　これ物　その　かしらびより　京極のをこれ
俗ハ撰し　市場　ハ俳諧　ハ
并二　夕顔　俳諧のかしらびし　今物語
三巻　若紫　今物語　并　赤摘花　俳諧のかしらびし
今物語　四巻　紅葉賀　同上
五巻　花宴　同上　六巻　葵　今物語

七巻　榊　今物語　八巻　花散里　今物語
九巻　須磨　今物語　十巻　明石　同上
十一巻　澪標　今物語　并一　蓬生　俳諧のかしらびし
并二　関屋　俳諧のかしらびし　同上
十二巻　絵合　十三巻　松風　今物語
十四巻　薄雲　今物語　十五巻　槿　今物語
十六巻　乙女　同上　十七巻　玉鬘　今物語
并一　初音　俳諧のかしらびし　今物語
并二　胡蝶　同上　并三　螢　同上
并四　常夏　同上　并五　篝火　同上
并六　野分　俳諧のかしらびし　同上
并七　御幸　俳諧のかしらびし　今物語
并八　藤袴　俳諧のかしらびし　今物語
并九　椙柱　俳諧のかしらびし　今物語　或ハ橋姫ともいふ

十八巻　梅枝　行阿名す　十九巻　藤裏葉　同阿名す
二十巻　若菜上下　今ハ阿名す或八寸下巻阿もろ〻〻
廿一巻　柏木　今ハ名す　廿二巻　横笛　今阿名す
并　鈴虫　俗のかすゝし　今阿名す
廿三巻　夕霧　今阿名す　廿四巻　御法　今阿名す
廿五巻　幻　口上　廿六巻　雲隠
巻八名のゝ〻〻阿名す巻〻いろ〻阿名す巻〻
〻〻〻

[illegible]

○按ずるに源氏物語は明石の次に浦付い東屋の後に狭序の巻とあり今此巻に○五十四帖のうち橋姫の巻より後の後橋の巻まで宇治十帖とあれば光源氏の孫たる薫大将の事なれば宇治の八宮の事なれば宇治の八宮の姫君よりひきつづきとあるなり○芳賀矢一氏の更科日記も源氏は五十餘帖とあり今の六十帖とあるは今流布せる雲隠浦付狭序等二三帖を除くなり又初巻にはかの天台宗の六十巻に准らへ天台の六十巻に准ずるなり

源氏物語嵯峨本　五十四巻

角藏氏藏板　くわけ法光院のもし料紙は雲母摺り表紙は[illegible]

[illegible]

源氏物語繪入　六十巻

慶安の頃山本二郎兵衛春正の物語の句を[illegible]

此春正は長嘯の[illegible]

[illegible]

一巻　目安一名[illegible]　二巻　引歌一巻[illegible]　若菜の巻[illegible]

[illegible]

紫明抄　写本　十二巻　素寂法師

[illegible]

へ[illegible]ぶ[illegible]くかゝ[illegible]ぶ[illegible]の[illegible]際の[illegible]仏[illegible]あ[illegible]ゝ[illegible]ん[illegible]す[illegible]ゝ[illegible]も[illegible]さ
きのさ[illegible]ゝ[illegible]ま[illegible]し[illegible]け[illegible]ゝ[illegible]ん[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]よ[illegible]れ[illegible]ゝ[illegible]ん[illegible]ぶ[illegible]ゝ[illegible]ら[illegible]ぶ[illegible]け
て[illegible]明[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]の[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ

[illegible]

○此書五卷のうち惟光良清二人のえがいたる[illegible]

巻第一　料簡　巻三は物語の起源の作　支保氏物語

巻第二　式部の作　[illegible]

相愛の巻　[illegible]

巻第二十五　奥書　四辻大納言中書陽明文庫　永和五年

此今永和五年春四月書写一本　永和五年三月十四日　[illegible]

基之主判

[illegible]

[illegible]

六自仲春頃今至孟冬頃自書写一筆記不可出私箱者也　師河

[illegible]

此一句[illegible]

○奥沖[illegible]の大部[illegible]は河海[illegible]の始[illegible]暗記の[illegible]

草案[illegible]日[illegible]紀万葉[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏論義　一巻　二本

伏見院東宮に侍ける弘安二年十月四日の夜源氏物語の中の難義と
こゝろうくに同じ月の六日の日論義すべきよさだめ
右方　康能朝臣　兼行朝臣　定成　為方
左方　侍従二位雅有　範藤朝臣　長親　知教　具顕　左右八人
問題二箇條相出し　勝負相決すべく御硯十ゑし　判者
源具氏　序跋ハ同人し　此跋ハ文體を古今集の序ゑ倣ひてかけ
二首ハ扶桑拾葉集ゑのせ　○此書奥書雅世卿の筆にて
書写すと云　寛文元年上木す

仙源抄　写本　藤原長親

此書ハ源氏ゑ倣ひて和歌ゑ引いろはにふく法をせり
○長親ハ南朝の明親のゑし　耕雲と号す　此書の跋ゑ
ひのゑ相ゑ　備書ゑ明親のれづ　いの御

今ゑ此文ゑ引ゑ事ものゑ　○跋ハ相ゑめのゑ　此ハ
ゑ長ゑ事のつゞもなにゑあ　ゑ光源氏ハ相ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
て　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○年山方間[illegible]云 右大将長親と佐名明魏耕[illegible]号す[illegible]

[illegible]

河北狗のはの系より明魏はかり[illegible]

[illegible]

[illegible]

牛[illegible]

[illegible]

源氏小鑑　二巻　同上

米倉[illegible]物語発起の[illegible]

[illegible]

源氏物語系図

勝定院殿義持公(耕[illegible]老人進呈せ[illegible]

一巻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

跋　源氏物語系図　一巻

源氏物語系図　安居法印聖覚

紫式部が作る所の物語の次第を注し代々の人の名を連ねて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

墮獄の沙汰は少し源氏物語にあるべし仏説にあるべし
けり一篇の表白ハ山時つ〻〻〻

河内方より近ごろ水原八郎光圀他し花の餘情は成るを兼良公の作にて
の侯御ゆゑ義理と演說すれども新表紙は相違のゆゑ
されども表紙は只奥入れ物の上書ばかりの事なれども河海花の乃
両物かくんむいそぐ物の東西はるきゆつさやりもの至宝の物
なり○此物自序は、さく物の至宝は源氏物語よりてはかりこと
うれしくはしけりてあうびこのかりくく花の物語はけりこと
家は此新きちくくしく雪蛍の切はつもしいとなるべし此中の
河海物はいしく今物考つく源氏をうてうりもの中の
なりしく指南の人物えうもうあるべきの海本れどくく
なりれうと奥ちこと詞の物はまずちくくいせはより毛こあて
殘るは物いろひあやまれはけうしもは先達のさざうもりされど
はけのもくくなんどもくくんやつかよ易眼七のくくろ物を古
まつくく花の餘情ちくくちくくちくりの○巻首は作者の御ゆ
巻末は文明四年除月上澣桃花月十七日書ハ

兼良公の別号し此を恵仁乱の時南都にく著るれるの
花鳥餘情異本写本　二十巻　同上
明星物くくの花の餘情西かけう一八篇紫ちるを中一本八夫
源氏物語年立　二巻　同上
巻首は源氏物語諸色年立ちくく源氏君誕生のより巻く
上巻　相壺巻　真木柱巻　源氏三十八歳
下巻　梅枝巻より九巻　幻巻　源氏五十二歳　薫五歳
以上薫の年立くくくく美濃の物巻出る
○此書は諸物年暦の相違物ちかはの書はのおもし○奥書にて源
氏物語年立一冊者故従定家卿下野製作也件本應仁大乱於桃坊
文庫為白浪奪取畢爰任十年不慮感得之ちく永正七載季夏
中吉　前博陸史丸成恩寺殿所息一條殿冬良公也○一本奥書に右

手五者愚身四代曩祖後成恩寺禪閤之述作也云々　桃花素生年十五
第五〇此書も別書湖月抄等ニ附刻す

源氏和秘抄　写本　一巻　同上

為語ハ中ニ一ツ宜しきものなれども和ハ秘ハ
宝院ノ内大臣相月禅閤の假名の筆ニて〇奥ニ云ク右一帖者前関白相國
一条殿御初心者所制作也

源語秘訣　写本　一巻　同上

此書ハ源氏物語の大ニ十五箇條ハ有あ共其條ハ
相壺巻　源氏ハ服有ル
同巻　侍童ニ指貫ス
葵巻　大ねうれ法身ス
同巻　さるゝ山ハ一ス
明石巻
乙女巻

夕顔巻　揚名ノ事ス
花宴巻　翁もほゝ笑ひ給ひぬ
同巻　おのゝ宮ハ
榊巻　ものゝ
薄雲巻　ゆゑ
玉鬘巻　ゆゑ

初音巻　うゐ
藤裏葉巻　ハ
蝴蝶巻　ひ

此ハ三箇ハ揚名の外ハ不審ス

不審抄　写本　一巻　宗祇法師

河海花ハ雨夜の外ハ不審ス　一條禅閤へ

宗祇の

帚木別註　写本　一巻　同上

そうゝの巻ハ雨夜不定ス　一部ハ
かゝ別ハ
一名雨夜談抄

弄花抄　写本　七巻十三本　牡丹花肖柏

河海抄花鳥餘情等のいやしき所ハ
〇此書ハ通遥院実隆公ハ牡丹花老人の聞書ニ
光源氏年次　延徳相壺巻ハ　五十二家幻の巻ハ　薫ハ四家

白氏文集　抄　写本　二十五卷　西三条公條公

此書は白氏の巻以下混乱決しがたく
あれば別に一部とされば決すべし　叶はず栄西禅師の巻は
浦々に流れの巻　くりかの巻等なとを引　作者　時代　詳号　准拠
古来種々あるのみなり　○奥書に文明三月八仲夏初九入眼云々
又云　同九年二月重加点　又云　肖柏　宗祇　宗長
三年春中八於種玉受養主侯合点之　一巻　八文明才九宗祇　行脚
不審　何れも成点　後園　肖柏　一部とハ文明十二庚子年春
肖柏　後園条　以彼自筆祖本勘載合点　やう　永正七
　　五時和　又永正七八月　三条西入乃右内大臣　永正十二初冬
　　遍　等の奥書　又一部一華堂乗阿弥蹟　年月　永廿一
年遊行三十六世他阿上人の假字の跡

一葉　抄　写本　十五卷十本　同上

才一　作者の　時代の　諸説不同の　号　准拠の　準拠の　引ハ　花

河一禅　一摘　和歌一二字抄　○奥書に右十五冊花
存以抄説　宗祇禅師　弄花諸抄葉を編之　明應七卯孟春仲旬
肖柏

細流　抄　写本　二十卷　西三条公條公

此書も河海花鳥の抄　取べき抄　花記
　　抄　花鳥　全體八弄花抄　　

明星　抄　五十五卷廿本　西三条実澄公

此書八細流抄を発端一奏抄　小補　もの
殿作　朱墨　耕雲　抄　内　朱墨　耕雲　史記の索隱述賛を擬　奏
の詠　耕雲　八漱石の朱墨

[illegible]

奥入　伊行作　伊行ハ行成ノ子ニ定家ノ弟子ニ[illegible]

追注加　定家作　行阿ハ中院言定家ノ子ニ[illegible]

[illegible]　私定家ノ奥ノ書ハ[illegible]

の遠作の説ハ伊行ノ説

水原　大監物源光行作　光行ハ佐々木氏[illegible]

[illegible]　[illegible]

紫明　素寂作

源中最秘抄　日上

源氏論義

行海抄　廿巻　四辻善成公作

花の餘情　雨中庵　上巻

巻之一　[illegible]の[illegible]　其外海内の奏ニ此一部永ク捨ル受

庭訓ヲ以聽書詞短心不足更非可全外見不[illegible]

為靈奥ノ巣爰或人難ヲ[illegible]

仲春十九日　又天文甲午暦千秋匡節終[illegible]　亜之[illegible]

[illegible]　○梅ずゑ此ちの[illegible]巻ノ[illegible]

称ス[illegible]假名[illegible]の部ノ[illegible]

孟津抄　二十一巻　九條禪閤植通公

植通公攻ル[illegible]ニ[illegible]此書ハ行海花の[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

講談ス聽ス[illegible]行海抄花の餘情の意趣[illegible]

いうこいい叶ぶるかぐ抄取捨の肯る寄花抄のキ要ばかりてて
其上ゝ抄いづるる抄再同一ゝ行る会抄のるハ愚名抄ゝ
ゝの天ハ和ゝ行ゝしろもゝ抄行の玄ゝ抄ゝ抄行ゝ黄河
九曲八崛山ゝいい抄ゝんゝ張騫ハ猶ゝ
ゝゝ抄のゝ銀河ゝゝゝゝ二星ゝゝゝ抄ん亟律
ゝゝゝゝ

行定家卿自筆の青表紙本此断絶の中なりしを河内守光
俊源氏物語にうるはしくもてはやされ河内守と世にもてはやされ
らるる新雲河内守紙信じ〻〻〻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とゝ[illegible]てくもてはの汨八字よりてすゝ[illegible]ゝ字[illegible]
[illegible]ばすゝ[illegible]ゝ字[illegible]ハ一[illegible]
甲ハ汨の大ふ[illegible]

源氏綱目　九巻　同上

自序[illegible]光源氏[illegible]

源氏物語一部連歌可用詞　一巻　写本

撰者代々[illegible]一部の中より連歌[illegible]

光源氏一部歌詞　写本　一巻

巻首に序[illegible]一部のうち[illegible]

源氏大概抄　一巻

一部の大意[illegible]

源氏物語目安　七巻　三本

これハ源氏物語一部の中の[illegible]

源氏物語引歌　一巻

[illegible]

萬水一露　二十八卷　二十二本　能登永閑

此書河海花多寿ち田流等の肝要を抜き出し有略せずして巧みに仕業の二十八品を分て廿八冊に成し刻す

應元年十二月の頃の跋あり○巻首に係氏物語圖書と記し○物語作者の物語作者由来の大意の古来称賞の紫式部の物語書を引て号す　物語係氏と号す　係氏姓を称す　五十四帖巻名の四識法門の四門段段の三識の分段法を引て巻末に雲隠の説一巻を附す○物語作者のかみを今こゝにげう作者水閑八月村齋宗碩の筆よりこゝに連綴せんとこゝろざし○河海抄を引て世にもてはやされし公家の所家は明りょうせんとすれども烏丸光雄卿作せしめ

山路乃露　一巻

和泉の俗至美比丘尼の奉の和歌書つづりたるものをかくせるなり
伊勢の俗しらひ俗てれど二条家にはありしものなり○ふるさ
歌をかかせ奉る附刻す

源氏雲隠　六巻

并一　巣守　并二　橋人
并三　法乃説　并四　ひとりこと
并五　やりみず　以上六巻し○此書才六巻の奥書に云
雲隠六冊光源氏物語全部者也紫式部物語音宝庫なり此物
語を善薩し秘かに當寺に什物や　康平元戊戌暦正月日
石山寺住僧大僧都信誉　又云石山寺系花雲夢ものくに六冊
物語りは法あちの宝藏なり此物語をくに奥をもつくえ應え
もの月二日山二住僧中御方花系親兼しるす○此書のうち俗
ちくに奥の奥誕りつくるくるし○橋ぢ　山ちの六巻法

源氏雲隠抄　三巻　浅井了意

義雄引歌云雲隠物六巻にすぎ山ぶくを地水火風空識の
ふくをくに聚合すれば乃ち神仏なり　解義すれば
乃ち仏なり　仏性なり　ものし巻は光ふくに行ふ
あくをくに部の抄ふ仏性の眼目なり

源氏雲隠抄　三巻　浅井了意

上巻　しくられ六巻の俗名の俗をくに合刻にくせる
序に云源氏の天花のしくの巻は太上天皇の号なり
なの上巻は四十の祝賀なり　幻は巻十二月晦日は俗をくに
の巻ハ五月一日ようおこるくをくにせし雲隠のな
らひは巻を載ハ　やりみず　さくぐ　花之　賢城
巣守　法乃説　今はやまハ　すまり　橋人　はのの　ひとりて
八橋　法乃説　案ずるに花之橋人　四ぐくひとりことくさがの
く巣りうとハ八橋とハれるうれ名うくすくぐくはのの
ぐ巻をやせるに山くさなハれなれだいづまもの俗をさぐ

すれば人々ありあたり下り　延宝五年刻す○或云源氏雲隱は六帖は源氏の補の作にて作者不明一説桜園の作也
しかるに系図の作り　橘人　巣守　八橋　さぶ　花又　さぶの
上下とあるは他言作分也名とも云れ　ろく○按ずるに
李吟雲隱は愚按ずるに世に源氏物語六十帖とりひかれて
たゞ五十四帖にて雲隱の巻名ばかりとり出せり
さぶくろ　やどり　ゆめ　これを者の妙術玄之玄なり
備物　ちとせ　ぬまの　ゆめ　橘人　宿の巻　をぶね　橘人　巣
守　刺櫛　八橋　嵯峨　宿上下　かどり　巻物くさ　六十帖のねもと
ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ものの系図のおくるゝ花の名ぞうもーをせたまてしいーぞも
何しても一説も用ひたるずろ所の法物一切ろうの物語もと
ろぐられぞうもの信用よしぶものかぐーこれ物語六
十帖八代の六十巻よ准ずるに又合六十巻も止觀よ開物

おもてやうもをぞ系式部ろぐ巻物かしく六十帖よりもたは
ものもろもろ和山雲隱の八代ものよ源氏紫式院の脚物致仕
大臣鬚黒大臣堂殿部ハ等の義其外女二人の系よりもたは
ろくの官位昇進のかぐろぐのかろ式旨趣ものの
巻よ弱物ろもろ人物つけたまつ

源氏外傳　字本　五巻　熊澤了介

此書の題名ハ源氏物語ハ表ばかりにて実ハ好色の
ものがたりなれ世代末よりの代の表風ばかりにて作
流五人の物語りよりけるものもハ人いく返つけず
人ばかりにて世ものをつけ物ものハ人ものも同
すくなくいつもあるぞろ式ろ人ばかりにてもいつかれ
ぞせまひ書ものもろ式論ものもろ物ものひとろくも
かくものもろ物ものもろ式ものもろ式ものもろ式ものもろ式
かくものもろ式ものもろ式ものもろ式ものもろ式ものもろ式
其中よりものの表風ものもちいかくもくかく

殘せりのしかりとも莊周が寓言の類一くれば[illegible]昔
のことばかりなのやうにもろこしのものがたりのやうにも
てきこゆるはいかなることぞ実はこれ證跡なりしかるに近代のこと
ばかりなんおよそ伊氏の君子好古の人たるかぎりは
あれど　いにしへ　古今和漢の故事みな世のすべてにつかはせ
ばこれ一家言なれど父母の時八歳にして多才の人にして國史をよみ
けるとてとかくしてとけ和文部とかくしけるとかくしかるに
いつしかこれかの人はなはだ流乱のものなりしかるに作者の奥意
なんかつけく書中にかるがるしくこれかもつぎなくこれかもつ
損ずるなかれ　夫日本王道長久なるものは禮樂文章を失
はずしかるに俗を尚ぶ物以てしいまこれの礼法のまねびさこれの
けるものなるべし　故に物のおもむきをかりてこれかりてこれ
を代の考風しれのいにしへくしかるに樂のわかりがたく侯なり　神
男女をよ上ぶかりく常に雅樂が数くいやしくぬこれもこれ

次に書中人情物いつてすつたびとし人情物をこれを五倫の化と
しかるにこれを戻すて八國治平ず家とのたりずこれ
ようにかはりもさきのものにせくくに情物にしかるに
ものをりさきかはりもせり歌物をば人間ば志をもるものの人
れ氣をかはりをもさきのものにせくくに情物をかはりくく
情物をもかしすべきものにはかはりくくけ
をかるに音樂のたかくそくもそりふ井のあるいハ君子のわ
ざなり故に管絃のいろひかをもそれを舊人風俗をもそれ情を
なぐさめしかるに自然とくの好めかをもそりふくいよ
わくせんよもていろをもそれ明君の奥をたくんすまで殘しとく
をくんのこころをもそれをかはりをもそりくくいそくくせ王者の道風
をいつぎをもんやこの方に順化院もかはりかをば日本の皇室をば
かきたまてをもそれをもそれをもそれをもそれをもそれ礼法のかを達せり
中人以下のくにいろれ係名をそれをもそれ婦人の

[illegible]

書ニ曰ク源氏物語抄五卷熊澤了介翁所作也曾聞全部五十四卷各抄出之中院内相通茂公御色之且擇切於時事去為五冊也全部之本各冊内相自以朱批校之本云以熟齋之本敬字畢　享保庚子夷則初九　堯臣

有書源氏物語　五十六卷

ナリ五十四卷ノ系圖一卷年立一卷ハ附ナ諸抄ハ別ニ[illegible]万ノ一ノ抄ハ[illegible]作者ナリ[illegible]

湖月抄　六十卷　北村季吟

ナリ本五十四卷　發端一卷　系圖一卷　年立二卷　表白一卷

雲隱說一卷　總計六十卷ナリ

○此抄ハ熟ノ八凡例ニ予先ヲ箕形如養八条宮ニナル仕ヨリ抄供ノ傳授ハ文ナ五箇ノ秘訣ノ箇ノ口伝ハ抄傳ナリ[illegible]

相違ノ諸説抄ハ文ナ抄作ノ口伝多ク[illegible]ナリ[illegible]如養老人ハ[illegible]ノ梅名院殿三条院及ビ相ノ[illegible]八条ノ[illegible]作ノ[illegible]講説ナリ[illegible]其故ニ此講説ハ細流抄ハ以ク[illegible]ノ遺説ハ九条ノ東条院ノ君ノ[illegible]ノ[illegible]講説ノ奥義抄ハ九条ノ大閤幸家公ノ作ナリ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ

小説　紫式部作　号す　本部廣才の　物語の発端　本注
大意　物語准拠　物語時代の区分　物語連作の時代　物語作者
稱号の　光源氏物語と稱す　源氏物語の　源氏物語の
物語冊数の　巻し次第　諸本不同　諸抄　凡例
巻く行名　物語年表の巻　○はは近江の国の住人
中将宣長云紫式部ハ近江海の人にて一のかりうの出うさきもれ
ものあるもひろうすくりしかの抄のおいやしもろこ備
佛もろくれ書じも抄ひろ考へ出く行もとそくのかる
くあるこきあられうそハ花の餘情にて近海の住
やあるこころとさくもれるもじ抄考へくさくかじすく
たるこかるもをこ出の抄いあるこだいるものしたじ
住やもいこくこ語の住かじいこしこのこくこして用ひ
じ其ハ年花抄細流住の近海むるの抄すじれこあ考
くこあるこみるこ抄孟津抄岷に入楚万水に流湖月抄

れこじ沈石住やと録こ出こじ八抄じ抄川ちくさし
もこかこくたじすこじこうれのこし其中に今世ゆよいよ
ねくまこハ湖月抄しけよ山抄ハこじれもろくの抄じ抄あま
れこたじる沈こ住しより出住住今業こるすじくすじこ
こうこうこさこうこ書かこここ

六　八ふ草　写本　四巻　北村湖春

湖春ハ季吟の男かう○先ふうじみ子北村十帖源氏かじのこて
山ゆこれ大意抄こもれじいけもこじえんこかあこそこれ
こここくのあいくこりこれあきこあるこねこらすあじこう
のこけゆくやこちこじこうかこけこ住と住このりあこう
奉くのこちこここここじこう抄九年じ一毛じこうこけくこと
こここいこのこよこのこ住こ住ここ八医こここ
て湖春の老病のくのこじよこは愈ここここの書抄こここ
抄これこここここ一部の趣意抄住抄かじ世こここここの

かれぞさるべき人ぞ小説大概おのれ人板群ふしく耳ぢしすべ
やうしまのぶまゝ名づけるすいの書の末に閑春のそこ言ふ
ふみいりけり

十帖源氏　十巻　立圃

巻々の巻名ひとつ所書とやうに組そつぎふしく仮名とも
後世もへぶり立圃の後世

れ　され源氏　十巻　同上

はるもそもの巻名ひとつ所後世とそしてしく児女のあそ耳ぢしつぎ
ふしく後世まぜてしくれも自序ぶり寛文十七刻

源註拾遺　写本　八巻　契沖阿闍梨

源氏物語一部の註ふしず諸説もれしこいふいはやすみ
るぶ説ところしく説ものし古来のほど法者くいし
くして誤をしめ別に後世ず諸説を考へのせるぶも説

ひろしく拾遺とそづけし愛編一巻ぶり河海おのいはやを
ものぶ説ぶげものをけ物語説ぶめしふ更科日記そしあ
かしいしのしるべ説のせ其餘狭衣しけ物語引しるあは
後のし源氏君説ものしるよ注すふ誤かしるし武部ぶ名のしけ物語
武部の作者叶八作名ぬかしぶす　勅撰集しけ物語しのえ作を
しし諸説しけ物語の大意説いしし用不用しるしぶ諸ぶり
みを古説ぶ作しの褒貶ふ資治通鑑の文勢司馬光が詞ぶまあ
とを今素は後り誤し通鑑ふ宋英宗治平之後ふ永日かた
注の代治暦二年ふ物語ぶ作しおしるし千餘のかしぶ
みを古説ぶ台家の化義化法の両様の巻ぶ説ぶ
しけ物語説ぶしし説ものしけ物
ほうげしの日記しし作者説ぶ作しし長後ぶ五十餘帖のゆふ
ふしこいしぬべしかぶ説なふもしし作しも注のこ長短
ふれ不ぶ学ぶしても長後ふ説ぶりしやといし　みを毛注を関雎

冬蟲斯等の篇ハ后妃の化ハ示ス　鄭箋の説ハ淫放ハいまむ貶
惡水火のごとし　但文章ハ勿てハ鄭箋の説もとゝ〻ゞ山あゆハ
人〻けゝよ悪悪雑乱せりもゆゝけゝよゝかゞゝてハ説〻〻
ず定家の云可歌詞も言葉〻のゞ〻かゞ　みゝ山あゆ流布の
おゝ普通の假名たゝよ遠りゝ者ゝかゝ者ゝ悪も又隱〻れゞ
ゞたゝてゞ堪の宀ゝれハ太布かゝ太由ゝけれゝ以ゝの諸
説ゞも古人未發の説し

紫女七論　写本　一巻　安藤為章

紫女七論ハ　才徳兼備　七事共具　修撰年序　文章
無雙　作者本意　一部大事　心傳説話　寛ハ年山先
生伏見殿貞致親王の所館ゝ行〻ゝけゝの物作ゝ〻の中ゝ
大輔冬仲卿朕の侍従ゝき　先考定ゝ物朕の才ゝ物説共ゝ中朕
遠村公の所ゝ〻ゝ　烏丸資章ゝの所ゝ〻ゝ　乃侍従ゝ物ゝ〻の
中院亜相通茂ゝの所ゝ物ゝけゝ　水ゝ行ゝ物ゝ朕ゝ眠ゝけゝ

ゝん物ゝけゝ　彰考館ゝ〻ゝ本ゝ部王記小右
記權記左經記台記玉海玉葉明月記ゝト近き世ゝ二水記ゝ記ゝ
百部ゝ所ゝの記録物ゝ　故実ゝ物ゝ〻ゝハゝ不審物ゝけゝ
ゝ紫女の日記ハ物ゝ　物ゝ物ゝ紫ゝ物ゝ物ゝ
ゝ物ゝ物ゝ物

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紫文蜜の囀　五巻　多賀谷醉子

物語のかゝれし伝語よりかゝれし利かな帖のごとく前巻八摘題

凡例　二巻　きりつぼ　二巻　さくらぎ　四巻　月　五巻　りせゝ

享保六年甲陽府中仕官多賀半七著述

源氏男女装束抄　二巻　壺井鶴翁

源氏男女装束抄二巻八りゝ永心の中連歌の宗碩のいつくしきすゑつゝ

うれはしすゑのゝ花の餘情はよりかゝりまつ永仁海田流年も

半の設はもい奥さよ右一冊者依叡寺懇命令附与蔵本結集

永正年四月二日宗碩花押ゝのこれゝ碩の管見の大概抄

すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

逐〻これ抄もて〻る也〻抄名称所寸実ハ紫式部一人の作すし
ゝろし○要抄ゝ袋草子ゝゝ古物語の抄撰集ゝゝ
ゝやはり拾遺雑一巻ゝ抄

抄ひとつなるもの一巻に撰集ゝゝ
これゝ源氏物語ゝ抄ゝ入ゝ
紫式部ゝ抄ゝ

源語抄錦　写本　十巻　川上静庵

天地時令人倫人事器財服食草木ゝ要事ゝ抄ゝ
語ゝ抄ゝ截断ゝ部ゝ収め作文家ゝ採用ゝ
ゝ○静安遺草ゝ号ゝ陶江郎ゝ号ゝ浪華ゝ

雨夜物語　二巻　藤原宇万伎

此書ハ帚木の巻ゝ中の雨夜の品定のゝ
ひゝ今世の俗語ゝ
の人やゝ
ひゝ書ハ安房ゝ

八紫女七論より紫式部の女訓の八ツ迄源氏物語八ツ
せたる事ハ[illegible]自夜のものゝ[illegible]
めぐりハせあてゝ[illegible]
すあ[illegible]
[illegible]
[illegible]

巻之六七八九　同上　春育よ茂井こ尚の序あり

紫文要領　写本　二巻　同上

趙氏大抵上巻は物語のとくしの舊稿なり　跋こゝに右紫文要領上下二巻は　しごろ九ゐんよりひいこゝこのもけ　くこゝこゝ　しんひろめ　こゝ　ゐんこゝ　ゐせ　ゐ　こゝ　ゐ　のゐ　ゐ　ゐ　

のこりなく物でも陪ることせなかりずしてこれをあきらめて
ずいかれぞかくかぎりなくなりけるもいとおびただしく
いづれからとよの光源氏のすがたのしるしなりけれとしたがひ
かくるべくもやすくなほれり　みえまの帝うちいでゝ
しるべきうしのたまひてまきしひろはいれ
とりしべきやうをもたまへり　みえにけりてこうしひつ月せさせ
たまひしくこれをもしるしのけりんれぞれかくれをもえ源氏の
ふるまひのものとしハのさきハすれ陪らんずるよしのしるしを
けつあれまつるえるもかりりの○要ゆゑ右狭衣源氏としみ
おなじ作ゝしひけゝ母のつれるものかれぞもさこるもしても
つるものゝうかれぞもてるもしるしく引用ゆゑ傳案ハ
狭衣の作者大貳三位ゝけるずゝく○今ハ九ハ華堂切陪ゝ
ゝるものしるしく目録のまゝ山ものゝのゝもなきを
系圖一卷下紐四卷と附刻す

狭衣系圖　一卷　道遥院實隆公

源氏物語の系圖ゝしるしく他ゝたまつりしるしゝ一華堂切陪の
跡ゝゝ書ゝ附刻す

下紐　四卷

他者つまびらかずゝ狭衣のおなじゝ今ハ附刻す

和泉式部物語　一卷　和泉式部

式部ゝゝ日記ゝく冷泉院ゝ四の皇子師の式部ゝ
ゝくかひたまひしゝ贈答のゝ
ゝ○奥書ゝ字中ゝ此一冊借右中辨兼秀本後十月
十四日漆筆今日終切畢　享禄二年五月朔日右少將藤言継
朝名　寛文十年刻○此書扶桑拾葉集ゝ
ゝの　字本　四卷

作者つまびらかずゝ此物語の趣意ハ特大納言ゝ
人の方二ゝ人ハ男君今ゝハしめ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今物語

前右京權大夫信實卿の作[illegible]十巻は[illegible]仁和寺書目に今物語廿七冊存[illegible]信實卿は[illegible]時代の歌[illegible]

今物語　一巻　信實朝臣

[illegible]

今物語　六十巻　源隆國

此書本名八字治大納言物語ゝ以書のすゝ物語條ゝ
めゝ今ハひゝゝ書ゝゝゝゝゝ今昔物語ゝゝゝゝゝ
刊行ハ井澤長秀氏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
巻ゝ千 其六十巻ハ 日本部ゝ十巻 天竺部 十五巻 震旦部 十五
巻ゝゝゝゝ目録ゝゝ

巻一より巻十一ゝゝ 世俗傳 巻十二より巻十五ゝゝ 怪異傳
巻十六より巻十九ゝゝ 悪行傳 巻廿より巻廿三ゝゝ 宿報傳
巻廿四より巻廿七ゝゝ 佛法傳 巻廿八より巻三十ゝゝ 雑事傳
以上三十巻 日本の部既ゝ刊行す
巻三十より巻四十五ゝゝ 天竺部 巻四十六より巻六十ゝゝ 震旦部
以上三十巻いまゝ刊行せず○此書のうちの物語古今著聞集宇治
拾遺等ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

目録の末に語章合千三十段　原本一數合貳千九百十七枚　○第一巻天竺部のまとめ　釋迦如来人界宿給語　第十巻本朝部のまとめ　聖德太子於此朝始弘佛法語なり

宇治大納言物語　三巻

これなん名小世継しるしたるなり又一巻の別本に世継物語とも世ものがたりとも○紫文要領云宇治大納言物語とて今世にいふ所の伝説真の隆國の物語にはあらずなれの人ども世にいふ所の物語なり

宇治拾遺物語　十五巻

系本ハ隆國の作なり今普物語拾遺○刊本の序云世に宇治大納言物語といふものあり大納言ハ隆國卿なり世人し西園寺の祖父大納言其二男なり　○ことしの五月より八月まで八平等院一切經藏の南のつぎハに南泉坊にこもりて宇治大納言ハきこしり

れりとぞ世にいひつたへしかばなるべしこれもいとかしこきことなりけるかとてかくかきつけ侍なるべしかくのごとくなるものの世にいとまれなるものなりとぞ人のかたりしかば

遠物作りいつゝ和差別さてゞ〻〻〻

秋夜長物語　一巻

[illegible]

松帆物語　写本　一巻

[illegible]

岩倉の何[illegible]氏坊と宰相の君と[illegible]

大納言物語　写本　一巻

[illegible]

女郎花物語　三巻六本

[illegible]

北村季吟自筆にて刊板せり巻尾に同人の跋あり

紅葉〻物語　字本　六巻　蓮心處士

これも仮名にて文正の比にて男女夫婦の間のねごとに詠あつめたる巻にて末に名ある人の歌一首ありこれ蓮心處士何人かしらず

西山物語　三巻　建涼代山

中古の事にて記日本紀万葉にて餘物語等の名を引用せり

上巻　こがれ巻　たちの巻

中巻　あやめの巻　琴の巻　文の巻　これの巻

下巻　秋の巻　ほたの巻　ほたの巻

明和五年二月金龍敬雄真字の序あり同年三月刊

吉野物語一名本朝水滸傳　十巻　九本　同上

弓削道鏡惠美押勝和氣清麿等の事を物語にしたれども物語にはあらず秀つたる者今世に多し

昔さまよりけに今これ水滸伝に名付てしるしたる作にてもむきはしるしたるに似たるものなり○刊本八巻の一巻の末にて巻首に明和十年正月大神大夫若系和祥の序あり同年刊行す

吉野物語續編　字本　十巻　同上

刊本八第一條より第二十條にて終る第二十一條より第五十條までを載せ巻末に第五十一條より第七十條までの目録を挙げ○接ずに涼代山友人風月某の跋に金聖嘆の評ありて七十回の水滸伝にして其外此物語の作なるしるしなりこの書の風韵を模せり

枕草子

草子類

三卷　清少納言

昔八叶さまの名をもたくちよ法少納言といふつゆ也さまハ枕のさ
ふしとかけるとの題号枕ハ木紙しりとすハ叶さ紙の裏ふるくさ
おもてに内のおもしれまろれたるしハ枕ふれしかけハ枕ふ
りハ史記とりて文枕かんしをはるしのくまたせしハ枕ふくしろ
ものかけあるやうはさぐえくてれたるもてりハ枕あるくさ
こよりかけやくつきせず枕ふる紙の枕とうあくえくせしくの
枕ふるこくぶ枕ふもくふれハ内大臣伊周公后えく枕紙を進
せくふ叶后えくの御言ふふれるくしもと枕ふくふくしくかけ
詩ふせたるかのくもしもと枕ふくふくしくかけ
くふ紙ふれさまよかれぐくかけくふくしくさまハ素
さ枕ふかぐくふくくのもくとくふくしの季吟曰叶さ紙ふ

さまざまなり或は二冊或は三冊五冊一決し難し古今和歌集は撰集原氏物語は定家の僞作なりと世にいふ事なり
然る紙を入れしこと此の時分既に出来し承應二年の奥書
尾州より一本ありて上下二冊其外仮名中古の歌抄
等と其ふるさとの歌を以て久しく秘蔵せり
考かじるに奥に矢年両通ありて一は此方
と合せて新撰せしなり其れ行末に奥に
往年所持之愚本紛失年久更借出而之本人之書写之
證本不敢不審但管見之所及勘合舊記等註付時代年
月等謬案故一安貞年三月　老及愚翁
文明七年之仲夏廣橋亜相迭貫相院隆右本下之本未両冊
見示曰余書写所希也敬命并獲此既柔毫彼舊本不及
切句此新写讀而欲咨易故此故之次加朱點畢　応二位行
權大納言藤原朝臣教秀

此作者朱点は教秀卿の書のさまなり
又一本上下二冊堺本にて
發端より一紙ばかりは
此方の書のさまなり
其次は同
愚翁教秀卿の奥書なり
愚翁は
一冊は
奥書なり
愚翁教秀卿の
一冊は
古今和歌集
古今集
其外順徳院の
御抄
又基俊の
悦目抄
香炉峯の
兼好法師
○季吟曰或中に
仮作の
仮名の
のうちに
同里

[illegible]

[illegible]

[illegible]

枕草子春曙抄　十二巻　北村季吟

巻首に法ふ納言の傳系ならびに清少納言の傳記あり　孫引の引用書目の○季吟の注釈は中古より季経の抄十冊ありしを今は行方しれず　○今の抄は寛文の頃の著なり　○本文は底本に

此書巻首ニ清少納言枕草紙壮衣束撮要抄ト云ヘリ　目録ハ
櫻の直衣　二藍の丁　香の衣　卯花の衣　二藍の袍　朽葉の袍　六位藏人　蒲萄染の丁　あかびもすびの丁　皆綾　ひはだ　細長　汗衫　古今冠　大口　指貫　袴　革帯　裙帯　領巾　雪の比　手鞠　巳上男女の装束ハ　ぐ　諸ハ引ハ　ハ義　紙　今案　巻末ニ享保十四年四月穴太田義俊ノ跋アリ　同
ぼうぐ草子　一巻　明恵上人
一名空化論　ハ　ハ　ハ

仕生の素懷なりしも彼ら〇近き世に土肥經平が春
渓漫話にいはく偽書に曰ふ近き世に巻に冷泉万里小路の内裏と今
の内裏に書しに此内裏建武元年四月に焼亡せしかば巻は
建武元年に記せり然れども巻は花
園院の大納言にして建武元年五月に大納言補任あり
人かれども巻は建武元年にはあらず
巻は洞院の脇御の時の家せし
記なり洞院は正中年中に仕字多院の脇御の時の家せし
双の園に住すでに十五年の後伊勢国へ行くべし
暦に云ふ所の巻は建武元年に吉田双の園にて
書しに巻の始に云ふ所の巻は
もかれ都をさえ
巻のなかに

衛佐にて正和文保の比にはべる醍醐天皇の時いまだ坊にて二条万里小路の
院にいまして時此内裏にて坊にたのもの坊にて
にしよりは其時の春宮大夫は坂川大納言内信
普子に
ゆるくりなまなけれども
ゆるくまなけれども
巻は
巻は
巻は

院ハ立安法師のもし此書中院也芝軒の奥ちかき

野槌　十三巻　林道春

其今院の注抜きく引用しくるれよりわぶの故の抜考へ中ト
部の系図抜ちもうもう為如のもしもし風雅集以下の撰集しかも
その抜あげこの今剛之味ハ経毋のもしものせうもうもう假字の
自序法ハ〇序ハ神代よりそれ以の抜野槌もいでまるハ〇と
つもしもしくのつもしもしくもしく〇按ずるに日本紀神代巻之生
草神草野槌亦名野槌ハ〇此書上巻八冊下巻六冊合本十
三冊し

鉄槌　四巻　青木宗胡

これハ鉄槌のゆうめき出くしやすしめんどあるれ抜ちもし
かりらぐて巻ものし上本末下本末ふるてう寛文十二年四月
上木す

鉄槌増補　六巻　山岡元隣

此書ハ鉄槌の註ありしかして其今院抜野槌なるそこの長所九
抜盤ハ抜句解諸家聞書文段抜等の要領とあり洛下隠士
而悦齋しいて元隣の号し貞享二年刻す一加賀の跋ハ

慰草　八巻　松永貞徳

もしもし野槌の抜ようくろけて一所にして大意抜きくこ
ものし〇多田義俊ハ貞徳つもしまれ抜らくなる
みまく号十貞徳のハ古今傳源氏物語の抜ひてハ決一く
けくしハもうもう法貞抜人くもも抜人くもまれもくこ箇
の抜五箇の秘もくもうもうもうもうもうもうもうもう
まハ箇抜抜源氏もの抜受ハ十四ものもの
其ハもなくもくこ箇五箇の抜抜つもまれ文面ようくもの
ものもの貞徳のもくハれ遠もくもくもくもくもくもくもく
ものかれぞハ箇の抜もくもくもくもくもくもくもくもく

[illegible]

徒然草抄　長頭丸抄　二巻　同上

[illegible]

徒然草古今大意　二巻四本

此書ハ七文字あけず　寿命院立安法印　[illegible]顔巷道春法印

遊遊軒貞徳居士　已上三家の抄の評論の[illegible]

兼好の[illegible]ハ野槌の[illegible]入り序も真字假名[illegible]野槌の

序抄の[illegible]

徒然草金槌　十二巻　西道智

[illegible]

徒然草古今抄　八巻　大和田氣求

解ハ愚明　鈔　野[illegible]

[illegible]巻首[illegible]書の趣[illegible]兼好の系図抄[illegible]万治元[illegible]刊

徒然草抄　十三巻　加藤盤齋

一名盤齋抄[illegible]前[illegible]抄の[illegible]佛書の語抄引[illegible]

儒書歌書の[illegible]上巻[illegible]下巻[illegible]五

[illegible]都合十三巻[illegible]巻首[illegible]部系図　兼好傳記　時代

題号　大略　等の[illegible]寛文元年六月盤齋の自序[illegible]

徒然草句解　七巻　高階楊順

此書の趣意[illegible]諸抄家[illegible]誤[illegible]定

[illegible]今舊説の[illegible]句讀

の下[illegible]と下[illegible]童蒙[illegible]便[illegible]寛文五[illegible]七月上木

徒然草文段抄　八巻　北村季吟

此書ハ[illegible]今院抄[illegible]野槌[illegible]貞徳[illegible]

[illegible]簡抄[illegible]章段ハ貞徳の抄[illegible]

百四十四段[illegible]文[illegible]一段の中[illegible]段抄[illegible]

三節[illegible]ハ六節[illegible]ハ[illegible]段の抄[illegible]

季吟[illegible]

明らめ[illegible]やすし[illegible]寛文七年十二月之本す

徒然草諺解　五巻　南部宗壽

古来の諸注の意[illegible]俗耳に通じやすし[illegible]首書[illegible]庵陽法印春流序[illegible]延宝五年刻す

徒然草大全　十三巻　高田宗賢

此書細川幽斎の筆記[illegible]寿命院抄　野槌　夏陰慰草　盤斎抄　句解　諸家聞書　諺解　文段抄　鉄槌増補等を引用し[illegible]上巻七冊下巻六冊合[illegible]延宝五年九月上木す

徒然草新注　四巻　清水春流

此書ハ此[illegible]の中より[illegible]古来の諸抄より[illegible]の文句[illegible]自己一分の了簡[illegible]

徒然草参考　八巻　浄福寺惠空

此書ハ寿命院抄　野槌　鉄槌　慰草　長阪九抄　金槌　古今抄　盤斎抄　句解　文段抄　鉄槌増補　諸家聞書　新注　諺解　提撕大全等十餘家の諸注[illegible]和漢の故事や語の昔のおよかりし[illegible]絡外隠士陶[illegible]和語の解[illegible]

徒然草直解　十巻　周西惟中

一名清談抄[illegible]巻首より[illegible]巻首より[illegible]百九十八人の伝系[illegible]梅林老人福住道祐の真字序[illegible]自序[illegible]

徒然草諸抄大成　二十巻　浅香山[illegible]

寿命院抄　野槌　貞徳抄　盤斎抄　句解　諸家聞書　文段抄
諺解　慰草　古今抄　増補鉄槌　大全　参考等の諸抄ハ
さすがに書傷ばかりなるゆへ大成にしるものし巻首より傳記系
図ハ志ゆ越路か府浅香氏山井輯にかゝる貞享五の上本す

徒然草首書　五巻

此書旁訓等ハかゝるにかゝる毎巻目録ハ附す洛东之本隠人
のかゝる元禄四の跋有て人の真字序ハ

徒然草集説　十五巻　隠者閑壽

此書ハ諸抄大成のはゝかゝるゆへ諸注を折中せんの趣意
なるゆへ参考の書ハ　寿命院抄　野槌　貞徳抄　慰草　支考抄
金槌抄　盤斎抄　句解　諸家聞書　文段抄　諺草　増補鉄槌
大全　参考　直解　吟和抄　首書　大成等に元禄十四年刻

徒然草吟和抄　五巻

諸抄の意ハかゝるにかゝるゆへ一名はゝ

草繪抄にて作者つまびらかゝず

寂寞草　五巻

かゝるに間に一書ハの句解ハかゝるにかゝるゆへ解にかゝるし
めかゝるに序假字にかゝる評論ハ附す作者つまびらかゝず序跋ハ
ともに若干名ハかゝるゆへ

徒然の讃　八巻　東華坊支考

巻首に兼好の事跡園大暦茅七巻ゆ茅七十二巻までの間に散在
すゆへかゝるにかゝるゆへ一ハかゝるにかゝるゆへ解を附す
宝永八年上本す

徒然草奥儀抄　六巻　高屋近文

舊名徒然草明行稿にて本文五巻に首巻ハ附にかゝる本に
す巻首に徒然草兼好が傳すに一部の書にかゝるゆへ没後今月庵
僧にかゝるつめかゝる編にかゝるゆへ崑玉集園大暦等に引傳す○
近文日一部の聞書釋通ハ納にかゝる解にかゝる文法ハ源氏物語ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御伽草子　二十三卷

一名御伽文庫といひ中古のまをとぎ物がたりなり

第一　文正草子　第二　鉢かづき　第三　小町草子

第四　酒顛童子　第五　唐糸草子　第六　木幡ぎつね

第七　七草草子　第八　猿源氏草子　第九　物忠太郎

第十　さゝぎいし　第十一　蛤の草子　第十二　子敦盛

第十三　二十四孝　第十四　梵天國　第十五　のせさゝ草子

第十六　猫の草子　第十七　浦島草子　第十八　わらび武部

第十九　一寸法師　第二十　さうき　第二十一　浦島太郎

第二十二　酒顛童子　第二十三　横笛草子

以上二十三帖　○此中才十六卷わかの草子文トかいへいゆ工安穏くゝめでゝ御伽草子ハ人ハ人ハ人

其他源光行出家のとつれづれ物の所作もいつとなく
とし〳〵せたりひりぐさこれ初は老てまさに古き歌の
書れゆゑ八番こゝかゝる人の作もこゝにわたるべきやうや今は三十
六番の目録は左にすべし

濱いで　いそがしき　常盤問答　いろの
夢ぬけ　新曲　劍讃嘆　なすの與一
よしごん　四國落　元服曽我　小袖曽我
和田こもち　とがし　法しげ　未来記
木曽願書　しげはら上下　馬ぞろへ　笛のおと
いぶき　十番切　大職冠上下　伏見くきハ
堀川夜討　あつもり　まんぢ　高だち上下
夜討ろう　ゆりも大臣　文覚　笈さゞ
志田　つきしま　烏帽子折上下　八島

以上三十六番の舞也

とゝ〳〵草　写本　四巻　建涼山

涼山諸國巡礼記　左衛門のすけもろ社餘人はものぐるうまの
こゝろのゆゑ奥にはものあやまりの感にはものは四季のこゝろ
て雅語とはいはんやこゝろもあり

すゞみ草　一巻　同上

此書ハ伊勢の名所の極暑ばかりあるを依ておなじ遊歴
せしこゝろをいろくすゞしくなるべきひとくさ
とこゝろぐつかるとゝぐせり奥ハ秋ちかくよりくまの
こゝろぐさあやまりしるべ　○附録ハ和文ばかり
たゝしこゝろべき歌のこゝろの抄あつめもちゐ寛政六年
二月上木す伴蒿蹊の序ハ

日記類

紫式部日記 写本 二巻 紫式部

此日記ハ紫式部夫左衛門佐宣孝ニ[illegible]ハ[illegible]の他[illegible]
[illegible]上東門院の御局のすゞ[illegible]堂関白道長公の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]日記[illegible]写本ハ契沖の校[illegible]
[illegible]ハ墨を[illegible]假名[illegible]
業捨葉[illegible]収め[illegible]安藤為章[illegible]日記[illegible]
一部の奥意[illegible]考[illegible]式部の才徳を賞せ[illegible]紫女せ論[illegible]

紫式部日記傍註 二巻 壷井義知

[illegible]真字[illegible]義[illegible]
[illegible]考證の[illegible]巻首に式部の系図を[illegible]

巻末に日蔭の鬘の図をかけり

蜻蛉日記　八巻　右大将道綱母

道綱の母は正四位下右京権亮倫寧の女なり東三條攝政兼家公の室なりそもそも天暦八年の比兼家公の右兵衛佐なりしが時に倫寧の女をかしづきたてまつりて道綱を儲けたりそれ賜爵なりしが八月に道綱を延生せりそれより兼家公の室となりぬ

○此日記は天暦八年より兼家公の薨ぜられし翌年にいたるまで道綱を延生の後和泉の道綱重殿上の天禄元年にいたる廿年の間天延二年にいたる廿年の間天延二年にいたる廿年の間天延二

く誤てうこかゝれしと假名ばかりにてそうかゝれたる所を何ぞのゆゑよしなきかれてはあやまりめくるしきやうなるんうの外の術かゝんの齊治がしてもかゝれあ連環よりかゝれ和りしかめづらす推もてしるふんざよしかゝ碎○でしるんやうかゝとなく奥沖の校はかゝてこころろるるかゝしかゝ中のかゝこれ

なくはやかゝとはかゝず臆說かゝてくあのあやうかゝとふかゝ說のんかゝもかゝかゝてくかゝて解環かゝかゝかゝかゝ○凡例 上下 此書は辨道個は實と兼家公は次男なるべきの辨 奥沖校訂のす みなを轉訛のす かかんのかゝのす 此拙記れかゝ釋すかゝす 此書日記かゝ

ざかゝす 大鑑栄花物語等符合はす 女君の称号諸書に美因也

る道個は位署のす 女君の詠歌勅撰に入す 以上凡例上 料簡

原遇漢文 年立 係氏物語の年立とかゝて道個の成長は女君の主とは乃和

よりかゝて凡例の年齡をはぶくこと 補遺 かゝに紋のもらせしかゝ此書

以上凡例下 ○かゝは中ゆかゝと年号はかゝかゝ道個はの年齡は附すうの

年号は天暦 天德 應和 康保 安和 天禄 天延等なり ○此日記下卷は末に 年のくれかゝ夜はつかゝかゝかゝ此日記の大尾なり奥沖のこゝは以下は人のつくるものしるかゝて此物語は附錄かゝ卷末なり ○卷首に阿波今城世陽漢文の序はかゝ次かゝの自序なり 天明五年正月と未す

辨内侍日記 写本 二卷 辨内侍

一本に拾遺和歌集に入る 上卷は拾遺雜集の寛和四年正月廿九日かゝの詠歌なり 中卷は寛和の日記 下卷は 日年正月より 日と年 日四月十日まで

後深草院辨内侍歌多見之仍号彼集 此集 ○奥書に云 此集

闕公一男中納言長良卿之末葉中務大輔信實息女也

讃岐典侍日記 写本 二卷 讃岐典侍

上巻　坂河院序脇　崩序の〻〻を〻　下巻　[illegible]院序即位
大嘗会の〻〻　巻末脱文　○上巻奥書云　右拝借　仙洞
院御本　書写之　奥清閑寺亜相具房卿二校了　寛永十
六稔念二　秘書郎　下巻奥書云　右申請官本一冊源極薗俊
治書写之　奥名倉中将二校了　寛永十六稔臘十六　秘書郎

方丈記　一巻　鴨長明

長明北山に閑居せし時　はかなき事ども　[illegible]
[illegible]　○安元三年四月
廿七日の大火　治承四年四月廿九日の大風　同年六月遷都　養和の
比の飢饉　天暦二年の大地震の事　[illegible]
丈の記　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

のす　系図等ハあげりやみけたハ出さるもせり　○此記流布の本ハ巻末ハ欠ちたる

用ひけいハ入らけ　ちつ　ちうさたる　あしうハ　ハ　ちも　ハ

昭宝ぶ　ちハ　欠新勅撰釋教の部ハ十二光佛のハ　ハ　ハ

けるハ不断光佛ハ　ハ　ハ　

和文類

扶桑拾葉集　三十卷　三十五本

西山公御撰　古今の和文三百十三篇を載せたまふ　扶桑拾葉集とは　西院の勅撰なり　巻首に兵部卿幸仁親王の序あり　西山公此書を　太上天皇に進めたまへる表あり　別に系図一巻を著はし　作者の家系をあきらかにせたまふ

巻第一

古萬葉集序　嵯峨天皇
後拾遺和歌集序　茂系通俊
新古今和歌集序　茂系良経
續古今和歌集序　茂系基家
新葉和歌集序　宗良親王
古今和歌集序　紀貫之
千載和歌集序　茂系俊成
新勅撰和歌集序　茂系定家
風雅和歌集序　花園天皇
新後拾遺和歌集序　茂系良基

新續古今和歌集序　為家兼良
巻第二
家の集乃内　日　紀貫之
土佐日記
大井川行幸和歌序　日
巻第三
廣江の道記　日
庚申夜奉和歌序　源順　日
又
天禄歌合序　源為憲　日
行幸高陽院應制和歌序　善滋為政　日
又
枕草紙跋　清少納言
巻第四
亭子院歌合日記　伊勢
家の集の内　桂樹姫
賀茂の神々和歌序　日
熊野記行　釋増基
子日行幸和歌序　平兼盛
家の集乃内　曽根好忠
又　日
日跋　日
家の集の内　加茂保憲女
應詔和歌序　橘正通
紫式部日記　紫式部
巻第五　和泉式部日記　和泉式部
巻第六　家の集の内　相模
家集の内　為定卿
さしなの記　菅原孝標女　源俊信
巻第七　源俊頼
九月十三夜於前武藏泉亭詠和歌序　為基後
悦目抄序　為家為業
大うみ序　為家清浦
奥儀抄序　釋西行
撰集抄序
巻第八
高倉天皇幸住の記　日
巻第九
日後序　日
家の集の内　為家
後葉和歌集序　為家忠親
水うみ序
定家卿ゆめ物語　日
嚴島院幸の道の記　藤通親
古来風体抄序　為家後成
正治奏状　日

陸奥國耀川哥合序
日吉七社歌合序
住吉歌合跋
家の集乃内
艶詞　右京大夫
五社百首序
同跋
民部卿家歌合跋
安元除賀の記　藤原隆房
和歌色葉集序　歌枕部
百詠和歌序　歌為四
愚管抄序

巻第十

蒙求和歌序　源光行
俊成九十賀記　藤原長
賀茂大明神よりの百首和歌序
奉納聖霊院和歌序
早卒露膽百首跋
色葉和歌集序
土御門天皇に奏する文　藤原家隆
鴨長明
老若和歌序
少納言基長城悼の詞
百首和歌跋
桂中納言定家の卿の文
發心集序
堂玉集序

方丈記

巻第十一

遠島御歌合序
為家卿の文
宮河歌合跋
長綱百首の惜しむ詞
人けりの法の文　越部禅尼
父介　柯序　藤原光
弘長歌合序　藤原為家
古今著聞集跋　橘成季

巻第十二

夜をこめて　或日乳母文
十六夜の記
野守のかゞみ序　藤原有房
千五百番歌合勅判序　後鳥羽天皇
新古今和歌集跋
弘法大師勧跋
家隆の文
和歌初心抄序　藤原親盛
東関紀行
七十番歌合跋　藤原光俊
宝治歌合跋
うたゝね
竹大納言の家の五七日の願文　阿佛
隣女集序　藤原雅有
源氏論義序　藤原長

国立公文書館
National Archives of Japan

同　跋　〃
巻第十三
石清水序　形出　長秋記天皇
序　古今集跋　〃
李花集　乃ち　宗良親王
又　〃　〃
又　〃
千首和歌序　〃
巻第十四上
ろんぜんの日記　〃
筑波問答序　〃
巻第十四下
雲井序　〃
都のつゝ　〃　〃

中務内侍日記　中務
賀茂社序　形出　〃
名和長年よりの勅書　北畠親房
又　〃　〃
又　〃　〃
伊勢　〃　〃　係義俊
年中行事歌合序　為忠良基
嵯峨野物語序　〃
小鳥のはゝ　〃　〃
榊葉　〃　〃
愚問賢注序　〃　〃
雲井の花　〃　〃

白鷹記　〃
人ゝ　〃　〃　〃
巻第十五
高野　〃　記　〃　秋宗久
都のつゝ
後書　形序　〃
道ゆきぶり　〃
巻第十六
伊勢大神宮泰詣記　坂士佛
巻第十七
北山行幸記　〃
巻第十八
仙源抄　跋　〃　〃
ちゝさの松の序　〃

さゝの初ね　〃
筑波集序　〃　秋宗巧
愚問賢注跋
骸骨の繪の贊　教子達
言塵集序　係貞世
鹿苑院准后義満公厳島詣記　〃
河海抄序　係光成
源氏物語提要序　係能改
相國寺塔供養記　為忠親朝
七百番歌合序　為永長祝
両聚記　〃
鹿苑院准后義満公御摩頂　為永雅縁

後小松天皇弁慶の記 〃
巻第十九
巻第二十
春宮に賜せし歌序 北畠参議 孫義政
世鏡抄跋
文明歌合序 〃 〃 友京俊通
三源一覧序 覚乱法親王
魚山の作法
巻第二十一
文安詩歌合序 〃 〃
年経の序 〃 〃
南都百首序 〃 〃
草根集序 〃 〃
歌林良材集序 〃 〃
富士記行 秋竟考
椿葉記 北崇光院
富士記行 友京雅世
山づゐの記 貞常親王
和歌入学序 友京雅親
慈照院准后義政公自歌合跋 〃 邦高親王
五月雨記序 〃
嘉吉二年歌合序 友京兼良
雲井の春 〃
花鳥餘情序 〃
友川の記 〃
古今童蒙抄序 〃
孫子の記序 〃

勧修念佛記序 〃
竹林抄序 〃
巻第二十二
法乃むしろ 〃 友京雅康
山づゐ 〃
巻第二十三
答垂櫂実隆の詠月和歌序 〃
もゝの草の記跋 〃 友京冬良 秋月柏
ますゝみ序
夢庵記 〃 〃 冬良 義真
雪の名所寺社の辞 〃
巻第二十四
詠月和歌序 〃
細川右京大夫自歌合跋 〃
仙洞歌合跋 〃
世諺問答序 〃
なぐさめ草 〃 秋正徹
関東海道記 〃
もゝぐさの日記 〃 友京基俊
答垂櫂実隆の慰予失妻和歌序 〃 友京公友
世鏡抄序
新百人一首跋 〃 秋道真
三愛記 〃
雲井の作法跋 〃
勅撰の歌の変句の記 〃 友京実隆
中原遠忠自歌合跋 〃

慰案議基綱卿失妻餘哀和歌序
きあひき日記跋
住吉記行
巻第二十五
世諺問答跋　藤原定家
七十賀和歌序
高野山参詣記
武蔵記行　平氏康
巻第二十六
妻かいつめ和歌序
百首和歌序
清見の記
長源院ちいつめ辞
雅春卿かいつめ辞　教道法
名香合跋
巻資直卿和哥序
快祐法印七回忌和哥序　藤原公家
秘抄序
三塔順禮記
石山月見記
永禄歌合跋　藤原資定
桂林集序　藤原実枝
心珠詠藻序
称名院右府七十賀記　藤原植通
嵯峨記
昌叱といつめ和歌序

光源院贈左府追善二十一字和歌序　教実俊
かからさりし松の記　法親王
闕疑抄跋
巻第二十七
贈太政大臣信長公かいつめ辞
太陽院かいつめ辞　藤原肅
かやぐき
代賀豊州挽辞
又
陽光院三十三回忌追善の辞　平時康
仁陽成天皇升遐の記
巻第二十八
仁陽成天皇かいつめ辞
九州道の記　藤原孝
夢想記
眠江入楚序　藤原通説
贈左大臣義晴公とかいつめ辞　藤原忠
准后道澄法親王かいつめ和歌序　藤原信尹
藤原之仲かいつめ辞
夕顔巻辞
与二賀古宗隆辞
恕仙法ひとかいつめ辞
式部卿智仁親王かいつめ和歌序　好仁親王
日光山記行　藤原光廣
道の記

春の曙
式部の智仁親王の悼む和歌序
三島明神の法華経の奉納する和歌序
萬里江山石の記
目さまし草跋
花見の記
医師浄阿のいたくの辞
浅間の記
あづま紀行跋
百椿図序
桂陽成天皇四百年忌の廟奉献詩記　友京氏成
桂陽成天皇の悼む辞　友京実氏
式部の親王の悼む和歌序　良経法性寺
同
巻第二十九上
朝ぼらけ
さがこ沼
大井川遊遥記
巻第二十九中
吾妻の道の記
東山の家記　豊臣秀吉
西山の家記
春の山ぶみ
九州の旅の記
もゝしきのあつまのきけ道の記
鹿山のまゝでし辞
花山のまゝと
妙寿院の法そす日
松平越中のもとのすす日
道春法印のもとのすす日
妙寿院餞別
永喜法印餞別
巻第二十九下
道系餞別
祖母のもとより吹の日
玄旨法下のいためし辞
林叔勝のいためし辞
くまのまゝご
かゝけのこゝ
巻第三十
ぬすゝくまの抜し辞
稲葉内匠のもとすす日
那波道系のもとすす日
佐川田の何のもとすす日
春日の作つぼの餞別
心意法橋餞別
桂陽成院崩御と悼む日
妙寿院のいためし辞
稲葉丹後のいためし辞
かゝの松
きゝ衣
辞世
女のいためし辞　友京幸家

肥後守行盛辞　友平卿
於長嘯亭催花宴和歌序
報源光一詩歌序
九月十三夜和歌序
仙洞御色紙記
嵯峨遊覽記
関東海道記
友則つのり和歌序
扶桑拾葉別集　写本
何人の撰かるも知らず　三巻
上巻
圓融院扇合
長元八年殿上歌合記　作者不知
寛勝四天王院名所障子和歌
惺窩文集序
奉納菅廟詩歌序
又
日光山法華八講記
八瀬詞
成元餞別記
前の相公行幸和歌序
宇治鳳聖禅寺記
東三條院撫子合
珍誉集跋
風葉集序

新濱木綿和歌集序
鹿御覽記
陽禄門院卅三回忌記
中巻
大嘗會記
めつらしぬ物語
新撰筑波集序
枕草紙跋
下巻
十訓抄序　菅原為長
紫明抄序　素寂法印
奥州後三年記序　法下言安
同跋
釋門三十六人歌仙序　僧宗海
水魚瀬殿哥合跋
等持院八講記
北山院御入内記
春日社參記
つゐの御法
續五明題和歌集序
艶詞
秋風抄序　小野春雄
かなづかひ序
新自讃哥序　鎮阿法印
連珠合璧集序　梵灯庵
善光寺紀行　法下光安

北國紀行　口　海道記
芝草　同序　名仮名　種王菊次抄序　宗祇法師注抄出歌
奉納住吉連歌序　口　わかのうら記序
連歌比投集序　口　多くの良政公記あり　和歌序　口
和希養禅師注音和歌序　四三条内大臣

拾遺毛利元就家集序　字本　二十四巻　二十六本　江田世恭撰

目録一巻を附す巻首に漢字の題言あり　扶桑拾葉集の
續集に擬して撰ずるなり　此編に別行草録
の二科を以てす菊合　扇合　撫子合　讃岐典侍日記
日記　後醍醐帝年中日中行事　雅内侍
記等ありて文長短同じからず　皆倣せ收めて遺すべ
かれども拾葉集の孝標女日記　紫式部　和泉式部
侍日記を採録の例かくの如し　其文享保以来ハ十

の二三　其餘ハ皆近代延宝より上延喜より下て七八百年
の内かくのごとし

巻第一　別行
寛平菊合
東三條院撫子合
鷹司殿御息所殿春秋抄
巻第二
巻第三　上
巻第三　下
巻第四
円融院扇合
天徳歌合假名記
道範阿闍梨南海流浪記
讃岐典侍日記　上下
雅内侍日記　上
雅内侍日記　下
後醍醐帝假字年中行事
巻第五
円融院扇合
天徳歌合假名記
道範阿闍梨南海流浪記
讃岐典侍日記　上下
雅内侍日記　上
雅内侍日記　下
後醍醐帝假字年中行事
元徳行幸記
寛治二年歌合　方長卿
寛治二年歌合　雅兼卿
寛正五年御遊の記
後光園院殿永和大嘗会記

巻第六
東海道記
巻第七
東素絶筆すさび
巻第八
巻第九
日光のひゞき
巻第十
日手記
巻第十一
清少納言松島日記
宗長宗祇終焉記
巻第十二
小堤遠州庚東海道記
北野梵灯庵主問答　叡忍書
明空撰集目録
姉小路基綱日記
若草
日比屋廣日記
宗牧東国紀行
宗長九〻記
宗長筑紫記
頭書　定家
澤菴和尚鎌倉紀行
紹巴富士紀行

巻第十三
巻第十四
巻第十五
實條公関東下向記
同訪山家友記
實業卿高雄記
同嵯峨記
巻第十六　単録上
大中臣能宣家集自序
顕季卿俊頼朝臣贈答文
通方卿續古事談跋
御堂関白灌川集序　作者可考
源氏物語供養表白
素寂紫明抄序
元政上人身延道記上下
似雲奥州紀行上下
宋雅越前下向記
雅章卿芳野記
實種卿御廟拜見記
為村卿柿本影供記
壬生忠岑大井川行幸序
頼朝卿与範頼文
清輔朝臣尚歯會記
家長朝臣新古今跋
風葉集序
鷹司圓光院殿續後撰上帖序
玄玉抄序　作者可考

如大尼假名法語
頼阿十樂菴記
摘葉集跋　以上
葉物方書序　作者可考
源氏千鳥抄跋
救濟連歌抄跋
搨鴨曉筆序
景房多宝塔建立勸進状

巻茅十七　単録中
逍遥院前内府答姫華寺殿下歌序
同八景和歌序
宗祇百人一首抄跋
同悼宗椿歌序
逍遥院殿源氏系図跋

送珂憶上人序
仁和寺競馬記　作者可考
茂範卿唐鏡序
職人盡歌合序
心敬僧都連歌抄跋
栄海僧正釋門歌仙序
住吉社司夢想註進状

新筑波集序
下冷泉持為卿百首跋
夢菴長正百首跋
称名院右府答冷泉黄門歌序
宗鑑老の春

宗祇自賛歌註跋
大江元就集跋
道登准后島津入道百首跋
遊行他阿上人寿花抄跋
道晃法親王家集の内
同里亭吉田座序
長松軒惟翁千年山八境記
後十輪院前内府御製十三首跋

巻茅十八　単録下
風早公長卿名香記
実業卿与青木永弘歌序
烏丸光雄卿塩竈香炉記
渓雲院前内府硯銘
同長柄橋拄文基記

義尚公多田院奉納和歌序
東求院殿下近江八景歌序
信長公賜布施藤九郎書
後西院御製鳳足硯記
烏丸資慶卿泉涌寺御法事記
西山公贈朴翁辞
道晃法親王女院御色紙跋
清水谷実業卿牡丹花序
有栖川宰仁親王贈永弘歌序
公長卿同
日野弘資卿硯銘
同橋立香炉記
同芦田鶴笛記

同 瀧浪菓子記
永久世博高卿同
重季卿高雄山記
風早實積卿同
同 千歳藤記
同 夏衣和香木記
同 与津田氏女辞
同 弘川古墳種花記
柳原光綱卿舎雪盆石記
同 卜種香箱銘
同 遊八瀬里記
同 与小出信濃守詞
不時心院前内府東行記
光栄公宗祇水記

冷泉為綱卿織物手鑑序
中院前右府曽根松記
油小路隆貞卿清和院僧正八十賀歌序
同 長柄橋柱文基記
同 布留鳥居硯箱記
同 葛城百首跋
同 似雲窓の曙跋
石山師香卿茶杓記
実隆公雪嶺盆山記
同 修学寺行幸記
同 興福寺勅建勧化疏
良恕法親王いせ物の道ちぐ
木葉集跋 作者未知
同 碧梧亭記

同 示松井生辞
同 長柄橋柱硯蓋記
九条殿下白峯奉納歌序
巻茅十九 補選
晩翠集序 僧芙沖
住吉社に奉納の奥書
柿本の神祭るふてるの
八月十五夜名月和歌序
壬子試筆の詞 室直佐
巻茅二十
しの花ぞの
橙子香合記 昭象
むろ社早ゝ世 日野弘資
巻茅二十一

同 西蓮追善歌序
鳥丸光胤卿贈字佐宮司歌序
同 月輪殿追善般若心経跋
暮露草紙 作者不知 下河辺長流
林葉累塵集序
掬ぶ城 ふてるの序
楠正成の伝賛
野田茂の記
東武再往日記
閑谷集序
東紀行
賀六十和歌序
四十賀記
関東下向記

作者不知
岩正章
今井似閑
小坂政一

丙辰紀行　林道春

巻第二十二

奉納百首跋

漫吟集序　下河辺長流

得撰移植時謝本主詞

詠紅葉交松和歌序

人丸両眼なき人の哥

賀婚姻詞

惠心僧都図画記

代匠記序　成島信遍

所国の哥

三宅浪親興行和歌序

奉祇園社百首跋

盆石記

答富島利真公羽文　伊藤長胤

萬水一露序　松永貞徳

奉悼妙寿院辞

詠慶賀百廿首序　信英沖

贈浅小井氏詞

詠昇仙石和歌并序

吊喪之国子詞

源註拾遺序

餘材抄序

詠廿日月和哥并序　安月長孝

与含悦法師詞

退居久安寺詞　平向長雅

吊母喪詞

住吉奉納千首和歌序　有賀長伯

川井法橋夢想磬和歌序　羽間宗元

賀西山氏六十詞　川井五牧

翁の文序

桂山集自序

巻第二十三

春の哥　成島信遍

田園雑記序　法橋杜多

東の紀行

假名文字書様大意序　渡辺素平

東野州聞書序例　作者不知

光源氏一部哥詞序　睡翁

假名句題和歌抄序例　平向長雅

風塵詞　上中下

夕日山記

因西五十田追福和哥序

玉津島紀行　川井五節

懐元亮和歌并序

高野山紀行　烏丸資茂

書状　奥野保晴

告天満宮文　西山宗因

有馬西吟五百句序　西順

追悼百韻序　園西惟中

一心子御抄序

愚問賢注六密抄跋

百人一首改觀抄序　植口宗武

新古今和歌集増抄跋　如泉紫芽

巻第二十四

日光山供奉私記 上下 源和男

自賛寄序 口上

又 口

奉悼玄旨法印文 松永貞徳

○按ずるに十巻の中の宇治の川淑の一篇後世遺す所の文乃集

文乃集 七巻 八本

探春の名所にて春の名所にて仏陀仏序にて花宴

と安永丁酉十一月 荷系忠胤漢字の跡にて扶桑拾葉集の

中其餘の文章数篇をもって文體別にて収む

巻之一上 歌集序

古今和歌集序 紀貫之

万古今和歌集序 藤原良経

父子相逓 上下 向阿上人

宇治の川淑 作者不知

家集の内 津守国基

仮名書国歌改正 [illegible]

巻之一下

續古今和歌集序 荷系基家

庚申夜奉和歌序 源俊

九月十三夜前武衛泉亭和歌序 口

風葉和歌集序

御賞濯川歌合序 荷系俊成

巻之二 物語序

大鏡序 荷系為業

增鏡序 荷系冬良

十訓抄序

巻之三 歌語序

奥儀抄序

筑波問答序 荷系良基

和歌色葉集序 釈孔叭

新勅撰和歌集序 荷系定家

大堰川行幸和歌序 九条[illegible]

子日行幸和歌序 平兼盛

天禄歌合序 源為憲

遠島御歌合序 [illegible]

水鏡序 荷系忠親

愚管抄序 釈慈円

悦目抄序 荷系基俊

筑波集序 口

殿上根合序

巻之四　記類
亭子院歌合記　伊勢　俊成九十賀記　藤原長
宗祇終焉記　秋宗長
巻之五　記行
熊野詣記行　釈増基　尾張記行　藤原為
泊瀬記行　後日之日母　〃　〃
石山記行　〃　辛崎記行　〃
高野記行　〃
巻之六　跋類
枕草紙跋　清少納言　百首和歌跋　秋慈円
宝物集跋　平康頼　古来風体抄跋　藤原俊成
宗久旅日記跋　藤原良基
巻之七　雑文
奉懐風神和尊序　化度〃　乳母の文　〃
贈京極黄門卿文　〃　盗賊禁止辞　〃

筑前中納言秀秋餞別辞　〃　蒔絵骸骨繪賛　〃
世　秋孝
歌文要語　上四十六篇　安永七年四月刻
天地　季候　人　衣　食　家居　器　恙　旅　生類　草木
神佛おの類　一巻　建涼山
其ことのひろ　古事記　日本紀　延喜式　古語拾遺　萬
葉　催馬樂　土佐日記　古今集　其餘物語類　抜出して各
其書名をあらせり　明和二年十二月刻
てしのきぶて　一巻　同上
八代ふのうちけくしうらはの四季を新しくちくのせ
ちうの長さこうぐるうれのとトは器しく生例なる
後編　てしのきぶて　一巻　同上

これハ源俊頼の仮文にて　君をも　母をも
思へいふ　子をも　なでらるゝ　佛をも
ゆゑ　なる　なる　早　ゆ　ら　て　ゆ　と　越の方系後世み
序　口　楊　炎　波　あ　と　安永二年　月刻

國文世説　跡　再考　三巻　蒿渓伴資著
巻首に題言十條　古作の例　中古作の例　近作の例
ちとうに　其時代の人物　引　御ぜ　又國語書牘の例と
て住吉物語　源氏物語　ふの　の　ば　あげ　まる　譯文の例と
所　安永三年　東縁信の跋　日六年刻

譯文童論　二巻　同上
ぐ　兄　よ　事　実の辯　次に　俗言雅言の差異　雅文　俗
文　ゆ　す　條　俗文と雅文に譯す　條　漢文　國文　ゆ　す　條
ふの　俗　ば　ゆ　に　向　阿　に　人　の　に　部　の　な　の　ば　仮　ば　と　和文　れ　や
す　譯　せ　ば　言　荷田春満　の　ば　け　赤壁

賊に擬せ　に　あ　く　加　に　し　ば　倫せ
寛政五年　如　人　真字の序　上田秋成　の序

記行類

土佐日記　一巻　紀貫之

貫之土佐守ニ任シテ延長八年ヨリ任国ニ下テ六年ノ春承平五年ニ任ヲハテ京ヘ帰ル時ノ記ナリ此文ハ男モスルトテスル日記ノヤウニヲンナノカキテトリ日記ノヤウニヒラカナヲカキテ仮ニ仮テ季吟ノオモフヤウ土佐日記一巻ハ善本ナレトモ但系図ヲツケ蓮華王院ノ宝蔵ヨリ出シタル文暦二年乙未五月十三日ノ記其奥ニ云ク文暦二年乙未五月十三日老病中雖眼如盲不慮之外見紀氏自筆之本蓮華院宝蔵本料紙白紙不お魚堺高一尺一寸三分計廣一尺七寸二分計紙也廿六枚無軸表紙續白紙一枚端聊折返不生竹無軸有外題土佐日記貫之筆其書様和漢列行定行書之聊有闕字尋下無闕字而書後詞不堪感興自書写之昨今二ケ日終功業門明静ニ〻明静ハ定家ノ法名

なり○或ハ此やうの老人雜談しなどして自己の世に行はれし佐日記ハ世
事を除の外物がたりし所定家つのりなりなどの自己のみの的
所よりて今ハ加賀の家藏となり定家つまり自己のみかよ
字一未ニ之ふるなど書しれ自己のの大さ形をも摸されしうえ
ハね世よ書しかけ書けるとまりぐるのうれとけるもあて
改ることれ以てこれで貫之ハ自己ハ字ふつのけるくまる
世なりしるるるう今吐付くく人ハ系よ貫しがまゆ絵としておも
すハるるよ〳〵ぐるるう定家つ乃ハまてハ書しれ自己もるるし
と見しくるれなのの大さ図ハ〳〵しるる貫之しなハ今ハ絶ぬ
定家ハなハ老人るびくるるるよ書しが書注ハかるるた
字摸なり今吐の変ぬハ似るるのよりず定家ハなハ今ハ
加かるるハ系殿へまりやるるるる○万治之年の刊なハな
よよ真字ハまりつく書るるよ此なよりよ書るるる注
左日記以貫之自筆本ハ将軍蔵物帝世の宝なや今公家く自ハ河幕

府借ち之遂一覽依武之教寺深切書之古代假字猫蝌斗未憲臨
写有魯魚乎後見輩察之而已明應八壬子仲秋候亜槐藤原
ち〻妙寿院ち惺窩先生のもの

土佐日記附注　一巻　三本　人見卜幽

巻首よ紀氏の系図官位のもの次拳林道春の貫之の傳と
のせ次よ貫之作の新撰和歌集の序大井川行幸和歌の序ホと
載るる凡例ちる余適見茂光相つるるるる以此為拠ちく自
序ちる得惺窩翁手筆之本又以別本撰其同異粗解釋之
ちく又讀耕齋林氏の序ちる○書のもの中庭宣長のもの
ちの序ぐくる日記のほるたる季吟のおのくるせハちるる
いろるくくるの附注しるつるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

土佐日記抄　二巻　北村季吟著

巻首に書題号れす京極黄門の奥書妙寿院の奥書
とのせ巻末に季吟[illegible]の[illegible]

[illegible]
寛文元辛丑八月刊行す

土佐日記首書　二巻

書作者の名[illegible]
[illegible]宝永四丁亥五月刊行す

土佐日記注　一巻　藤原宇万伎

宇万伎八賀茂真淵の[illegible]
[illegible]用ひ[illegible]明和五年十月[illegible]
[illegible]宇万伎の[illegible]人上田秋成先[illegible]
[illegible]諸[illegible]

須磨記　写本　一巻

菅家の所作[illegible]
[illegible]菅神[illegible]
[illegible]書[illegible]
[illegible]白太夫[illegible]
○桂秋齋[illegible]故事[illegible]作[illegible]
[illegible]菅公の所自撰[illegible]
[illegible]書[illegible]
[illegible]其[illegible]
[illegible]人の信[illegible]
[illegible]○俳[illegible]
[illegible]
[illegible]
○[illegible]宣長[illegible]

松島日記　写本　一巻

十六夜記　一巻　阿佛尼

阿佛尼は安嘉門院の四條の局家つの後妻なりしが後に播州網川殿とおゝ相つゝえんの為氏てゝ手師のゝてゝ為相の母阿仏尼訴訟のゝく鎌倉つゝ下りの記ゝ

長明道の記　一巻

此記のゝ記ゝ元亨二年八月十日ゝ記ゝ長明の鎌倉

下つゝを建暦元年に仁治元年ハ十二月あゝし巻末ハ
東鑑ハ[illegible]く長明の[illegible]も載れ[illegible]ハ記ハ係親行
が東南記行なるべくあやまるべ[illegible]

長明海道記　一巻　二本

これも長明の作ハ[illegible]ず園西惟中云鴨長明が海道の記
奉く長明が作ハ[illegible]夫木抄の中[illegible]
その詠[illegible]

東南記行　一巻　源親行

これも扶桑拾葉集も収めもつく世に流布するの長
明の名の作とするもの

藤川の記　二巻　一条禅閤兼良公

一名宗祇の記行なり兼良公應仁の乱を避く南都に
[illegible]

宗長西國紀行　一巻　写本

宗長法ハ文明十二年周防の山口へ下る人の記なり一名筑紫
廻国の記行と標せり○此記行ハ宗祇の作とするハ誤なり

廻国雑記　一巻　准后道興親王

一名宗祇田國記と号して印本五巻ハ[illegible]法係杜多の序
文と附すの[illegible]誤なり准后道興の作なるべ中

広廣日記　一巻　写本

広廣ハ徽書記の弟子なり日記ハ文明五年駿河下る
[illegible]

時[illegible]　一巻　写本

普光院義教公富士詣の記なり[illegible]供奉せ今川範
政の孫今川上総介義忠の家に[illegible]広廣法ハ[illegible]
[illegible]

身延記行　二巻　深草元政

元政上人八十餘歳の母に付て身延詣でまして上り
人の記なり はなはだあまたの名所殊勝なるこの名所
鎌倉記行　一巻　澤菴和尚

鎌倉遊行のとき歴代の変遷に感じ専五山の衰廢
温泉遊草　深草元政

えぶ攝州有馬に行き温泉の記其外詩文和歌と
春の曙　一巻　烏丸光廣卿

寛永乙亥の年の春烏丸大納言光廣卿関東下向の時の記
なり記のはじめは二月十日花の曙と始めたまひ
東海道を二条左相府春の曙にくらべたまへ

窓の曙　写本　二巻　似雲法師

享保十五庚戌の年似雲法師元日の富士山のけしきを
しるして並河五一郎のもとにおくりしを伊豆の三島なる
見のうへにもとりて道の記なり神代の月十日の夕
西嶮峨の草菴にて出るものとりよ伊豆のむこつ
けの文

[illegible]

春よりの夏の中ばにいたりてはの千秋のみどりの
[illegible]

[illegible]

[illegible]

延享三年光榮公関東下向の道の記 一巻 巻首よ
あらまほしかりけるかの旅ハ[illegible]故をとりつめ[illegible]ついてのまよ

修学院御幸宸記 写本 一巻 霊元法皇
享保六年十月廿七日 寛三月廿日 年九月廿八日 八月廿
年九月廿九日 八月廿 年九月廿日 十年四月廿日 年九月廿日 年
十月廿一日 年四月以上十一箇度修学院の別荘御幸の記と
[illegible]

道ゆきふり 写本 一巻 賀茂真淵
[illegible]
西帰し標して京より遠おもへ[illegible]の記なり 著
八月すゑの[illegible]引く考[illegible]

菅笠日記 二巻 本居宣長
明和九年の春宣長吉野花見の記なり[illegible]

[illegible]考[illegible]

東奥記行 一巻 長赤水
水戸の長赤水の奥おの記なり[illegible]
標[illegible]あり記中松島のみ詳[illegible]
奥羽北越七章記[illegible]
すつき書 多賀城碑 金石碑 御島碑 燕澤碑 野州那須
郡國造碑 おの図説釋文多[illegible]寛政四年十
二月刻す

詞林意行集 六巻 宮川一翠子
記行の文ハ東西南北[illegible]和文[illegible]
ハ稿おもの[illegible]
巻之一 東方 都乃つと 藤井宗久
巻之二 小島のすゝみ 二条良基公
宗祇終焉記 秋宗長

巻之三
東國陣道記　細川幽齋
東道の記　仁和寺宮伝
東関記　沢庵和尚
巻之四
石山記行　西三条公
石山詣の記　松永貞徳
東山道記行　小文字屋
東行雑詩　那波久左
遊醒酬寺詩　卓山元汶
膳所記行詩　菅原玄円
巻之五　西南方
尾州熱田至難陽廣島紀行之詩　梁南和尚
難陽道行詩　石川丈山
遊有馬温泉記行　松永昌三
遊有馬温泉記　李白心玄
南行詩　那波久左
江東吟稿　雪堂主士
遊神明山記
和石州山材難陽途中詩　林道春
同和韵　茂京玄円
南州記行　茂昌琳
南行詩　大秀和尚

吉野花見記　加茂盤斧
巻之六　北方
甲辰記行　隠岐記行　水戸林氏成
大京記　滑北吟稿　平巖仙桂
丹後海陸順遊日録　和田宗允
大京記行　詩　仙桂　歌　盤斧
大京和韵　右京大夫
文川翠子
拾遺意行集　一巻
巖島詩日記　南遊詩　同上　葉茂和尚
吉野詩記　乙巳行記　平巖仙桂
金剛山記　今川了俊　西三条公條公
山寺仙桂

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan